

JP1 Version 9

JP1/Integrated Management - Manager
クイックリファレンス

手引・操作書

3020-3-R75-51

対象製品

適用 OS のバージョン，JP1/Integrated Management - Manager，および JP1/Integrated Management - View が前提とするサービスパックやパッチなどの詳細については各製品のリリースノートで確認してください。

適用 OS：Windows Server 2003，Windows XP Professional

P-242C-6H94 JP1/Integrated Management - View 09-50

適用 OS：Windows 7，Windows Server 2008，Windows Vista

P-2A2C-6H94 JP1/Integrated Management - View 09-50

適用 OS：Windows Server 2003

P-242C-8E94 JP1/Integrated Management - Manager 09-50

適用 OS：Windows Server 2008

P-2A2C-8E94 JP1/Integrated Management - Manager 09-50

適用 OS：Solaris

P-9D2C-8E91 JP1/Integrated Management - Manager 09-50

適用 OS：AIX

P-1M2C-8E91 JP1/Integrated Management - Manager 09-50

適用 OS：HP-UX (IPF)

P-1J2C-8E91 JP1/Integrated Management - Manager 09-50

適用 OS：Linux 5 (AMD/Intel 64)，Linux 5 (x86)，Linux 5 Advanced Platform (AMD/Intel 64)，Linux 5 Advanced Platform (x86)

P-9S2C-8E91 JP1/Integrated Management - Manager 09-50

適用 OS：Linux 5 (IPF)，Linux 5 Advanced Platform (IPF)

P-9V2C-8E91 JP1/Integrated Management - Manager 09-50

輸出時の注意

本製品を輸出される場合には，外国為替および外国貿易法ならびに米国の輸出管理関連法規などの規制をご確認の上，必要な手続きをお取りください。

なお，ご不明な場合は，弊社担当営業にお問い合わせください。

商標類

Active Directory は，米国 Microsoft Corporation の，米国およびその他の国における登録商標または商標です。

AIX は，米国およびその他の国における International Business Machines Corporation の商標です。

AIX 5L は，米国およびその他の国における International Business Machines Corporation の商標です。

AMD は，Advanced Micro Devices, Inc. の商標です。

BSAFE は，EMC Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

HP-UX は，Hewlett-Packard Company のオペレーティングシステムの名称です。

Itanium は，アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation の商標です。

Java は，Oracle Corporation 及びその子会社，関連会社の米国 及びその他の国における登録商標または商標です。

Linux は，Linus Torvalds 氏の日本およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft は，米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Red Hat は、米国およびその他の国で Red Hat, Inc. の登録商標もしくは商標です。

RSA は、EMC Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Solaris は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国 及びその他の国における登録商標または商標です。

Sun は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国 及びその他の国における登録商標または商標です。

Sun Microsystems は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国 及びその他の国における登録商標または商標です。

TELstaff は、株式会社日立ソリューションズの登録商標です。

UNIX は、The Open Group の米国ならびに他の国における登録商標です。

Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows Vista は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

プログラムプロダクト「P-9D2C-8E91」には、Oracle Corporation またはその子会社、関連会社が著作権を有している部分が含まれています。

プログラムプロダクト「P-9D2C-8E91」には、UNIX System Laboratories, Inc. が著作権を有している部分が含まれています。

This product includes software developed by the Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>).

This product includes software developed by Ben Laurie for use in the Apache-SSL HTTP server project.

This product includes software developed by IAIK of Graz University of Technology.

Portions of this software were developed at the National Center for Supercomputing Applications (NCSA) at the University of Illinois at Urbana-Champaign.

This product includes software developed by the University of California, Berkeley and its contributors.

This software contains code derived from the RSA Data Security Inc. MD5 Message-Digest Algorithm, including various modifications by Spyglass Inc., Carnegie Mellon University, and Bell Communications Research, Inc (Bellcore).

Regular expression support is provided by the PCRE library package, which is open source software, written by Philip Hazel, and copyright by the University of Cambridge, England. The original software is available from <ftp://ftp.csx.cam.ac.uk/pub/software/programming/pcre/>

This product includes software developed by Ralf S.Engelschall <rse@engelschall.com> for use in the mod_ssl project (<http://www.modssl.org/>).



本製品は、EMC Corporation の RSA(R) BSAFE™ ソフトウェアを搭載しています。

HITACHI
Inspire the Next

© 株式会社 日立製作所



発行

2011年9月 3020-3-R75-51

著作権

All Rights Reserved. Copyright (C) 2009, 2011, Hitachi, Ltd.

変更内容

変更内容 (3020-3-R75-51) JP1/Integrated Management - Manager 09-50 , JP1/Integrated Management - View 09-50

追加・変更内容	変更箇所
変更内容はありません。	-

変更内容 (3020-3-R75-50) JP1/Integrated Management - Manager 09-50 , JP1/Integrated Management - View 09-50

追加・変更内容	変更箇所
業務視点でのグルーピング監視（業務グループ監視）ができるようにした。	1.2

単なる誤字・脱字などはお断りなく訂正しました。

はじめに

このマニュアルは、JP1/Integrated Management - Manager および JP1/Integrated Management - View の主な構築・運用方法を運用サイクルに合わせて説明したものです。JP1/Integrated Management - Manager の機能を使用目的に合わせて知りたい方は、最初にこのマニュアルをお読みください。

なお、JP1/Integrated Management - Manager には、このマニュアルを含め 7 冊のマニュアルがあります。このマニュアルで紹介している構築・運用方法の詳細については、次のマニュアルに示していますので必要に応じてお読みください。

- JP1 Version 9 JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド (3020-3-R76)
- JP1 Version 9 JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド (3020-3-R77)
- JP1 Version 9 JP1/Integrated Management - Manager 運用ガイド (3020-3-R78)
- JP1 Version 9 JP1/Integrated Management - Manager 画面リファレンス (3020-3-R79)
- JP1 Version 9 JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス (3020-3-R80)
- JP1 Version 9 JP1/Integrated Management - Manager メッセージ (3020-3-R81)

対象読者

JP1/Integrated Management - Manager を使ってシステムを管理、運用する方を対象としています。

また、次に示す知識をお持ちの方を対象としています。

- JP1 シリーズ製品の概要を理解されているシステム管理者
- JP1/Integrated Management - Manager の概要を理解されているシステム管理者

マニュアルの構成

このマニュアルは、次に示す章から構成されています。

第 1 章 システムの構築

システムの構成を定義・管理する方法や、イベントを監視するための準備について説明しています。

第 2 章 システムの監視

イベント一覧に表示されたイベントを一時的に絞り込んで表示したり、イベントの重大度をカスタマイズしたりする方法について説明しています。

第 3 章 障害の検知

複数のイベントを一つのイベントとして表示したり、障害の検知に合わせて自動でコマンドを実行したりする方法について説明しています。

第 4 章 障害の調査・対策

障害調査のために過去に発行されたイベントを表示したり、障害の対策方法をあらかじめ登録しておいて表示したりする方法について説明しています。

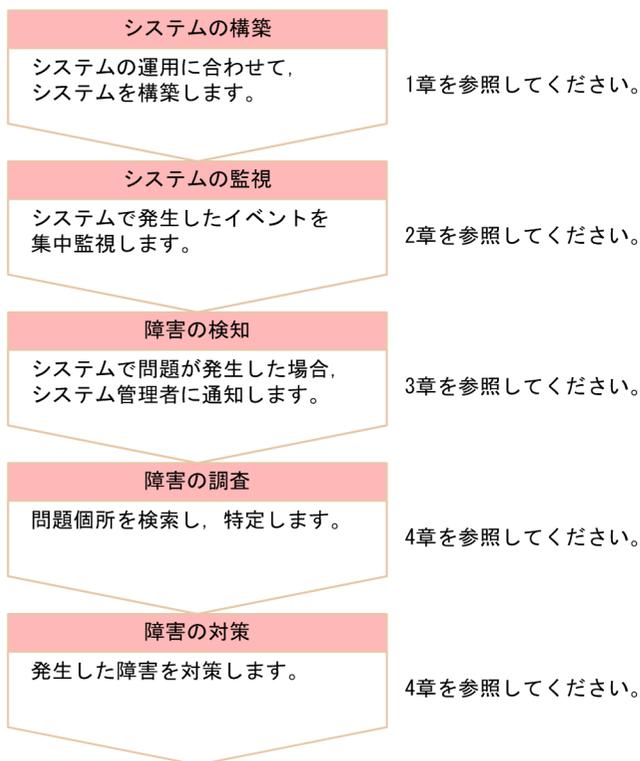
関連マニュアル

関連マニュアルを次に示します。必要に応じてお読みください。

- JP1 Version 9 JP1/Base 運用ガイド (3020-3-R71)
- JP1 Version 9 JP1/Integrated Management - Manager 導入・設計ガイド (3020-3-R76)
- JP1 Version 9 JP1/Integrated Management - Manager 構築ガイド (3020-3-R77)
- JP1 Version 9 JP1/Integrated Management - Manager 運用ガイド (3020-3-R78)
- JP1 Version 9 JP1/Integrated Management - Manager 画面リファレンス (3020-3-R79)
- JP1 Version 9 JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス (3020-3-R80)
- JP1 Version 9 JP1/Integrated Management - Manager メッセージ (3020-3-R81)
- JP1 Version 9 JP1/Integrated Management - TELstaff JP1/Integrated Management - TELstaff Alarm View 構築・運用ガイド (3020-3-R85)
- JP1 Version 9 JP1/Integrated Management - Message Optimizer (3020-3-R86)
- JP1 Version 9 JP1/Integrated Management - Service Support 構築・運用ガイド (3020-3-R91)

読書手順

このマニュアルは、運用サイクルに合わせて章を選択して読むことができます。運用サイクル別に、各マニュアルの次に示す記述箇所をお読みいただくことをお勧めします。



マニュアルの読み方

このマニュアルは、次に示す構成で説明しています。

4. 障害の調査・対策

4.1 過去に発行されたイベントの状況を確認したい

長い期間システムを監視していると、遡前に発行された障害のあるイベントと同じイベントが実行される場合があります。そのイベントに対して、遡前にどのような状態をしていたのか確認したくても、すでにイベント一覧に表示されていないことがあります。イベント一覧に表示されなくなったイベントを表示して、遡前に発行されたイベントの状況を確認しましょう。

問題

対策

確認

4.1.1 表示開始位置指定機能でイベントの表示時刻を指定しよう

【イベントコンソール】画面の【イベント監視】ページに表示されなくなったイベントを表示するには、表示開始位置指定機能を使用します。

表示開始位置指定機能は、【イベントコンソール】画面の【イベント監視】ページおよび【重要イベント】ページで使用できます。

タスク事例を紹介しています。タスク事例のおおまかな流れを、「問題」、「対策」、「確認」の順で説明します。

問題 監視中に発生する問題点を説明します。

対策 問題点を対策します。対策に必要な画面名、定義ファイル、設定する項目などを示します。詳細は、各節の1項で説明します。

確認 対策をとったあと、どのような状態になるか確認します。詳細は、各節の2項で説明します。

対策を紹介しています。タイトルには、対策に必要な機能名を示しています。各機能の重要な項目に限定して説明しています。

4. 障害の調査・対策

前提条件

- 統合監視 DB が設定されている。[※]
- 注意 イベントを取得した時点から統合監視 DB が設定されている必要があります。

【イベント監視】ページに表示されている、いちばん古いイベントの取得時刻が 2009 年 02 月 26 日 19 時 00 分 00 秒のとき、2009 年 02 月 25 日 09 時 00 分 00 秒に発行されたイベントを表示してみましょう。

時刻を指定してイベントを表示する前に、任意の日間を設定します。はがき、指定する期間は イベントの取得時刻です。
例、2009年02月25日09時00分00秒

4.1.2 指定した表示時刻からイベントが表示されているか確認しよう

表示開始位置を指定する領域で時刻を指定したあと、イベント一覧に指定した表示時刻からイベントが表示されているかどうか確認しましょう。

- 表示開始位置を指定する領域で【検索】ボタンをクリックします。指定した時刻以降に発行されたイベントがイベント一覧に表示されます。この例では、2009 年 02 月 25 日 09 時 00 分 00 秒以降に発行されたイベントが【イベント監視】ページのイベント一覧に表示されていることを確認してください。

キーワード
イベント、検索、表示時刻、【イベント監視】ページ、表示開始位置指定機能、遡前

便利メモ
イベントにメモを設定したいとき、メモの設定を使用すると、イベントの調査状況をメモに残すことができます。メモの設定については、マニュアル「導入・設計ガイド」の「3.9 メモ情報の設定機能」を参照してください。

対策で設定した項目が、正しく反映されているかどうかを確認する方法を紹介しています。

参照先
関連マニュアルの参照先を示しています。

キーワード
機能に関するキーワードや、類似するキーワードを示しています。マニュアル内を検索しやすくします。

便利メモ
関連する機能や製品を紹介しています。詳細は、JP1/IM - Managerのマニュアルおよび関連製品のマニュアルを参照してください。

このマニュアルでは、参照先のマニュアル名を次のように省略して示しています。

このマニュアルでの表記	正式名称
導入・設計ガイド	JP1 Version 9 JP1/Integrated Management・Manager 導入・設計ガイド
構築ガイド	JP1 Version 9 JP1/Integrated Management・Manager 構築ガイド

このマニュアルでの表記	正式名称
運用ガイド	JP1 Version 9 JP1/Integrated Management - Manager 運用ガイド
画面リファレンス	JP1 Version 9 JP1/Integrated Management - Manager 画面リファレンス
コマンド・定義ファイルリファレンス	JP1 Version 9 JP1/Integrated Management - Manager コマンド・定義ファイルリファレンス
メッセージ	JP1 Version 9 JP1/Integrated Management - Manager メッセージ

このマニュアルでの表記

このマニュアルでは、日立製品およびその他の製品の名称を省略して表記しています。次に、製品の正式名称と、このマニュアルでの表記を示します。

このマニュアルでの表記	正式名称
AIX	AIX 5L 5.3
	AIX 6.1
JP1/Integrated Management または JP1/IM	JP1/IM - Manager
	JP1/IM - View
Linux または UNIX	Linux 5 (AMD/Intel 64)
	Linux 5 (IPF)
	Linux 5 (x86)
	Linux 5 Advanced Platform (AMD/Intel 64)
	Linux 5 Advanced Platform (IPF)
	Linux 5 Advanced Platform (x86)
Windows 2000	Microsoft(R) Windows(R) 2000 Advanced Server Operating System
	Microsoft(R) Windows(R) 2000 Professional Operating System
	Microsoft(R) Windows(R) 2000 Server Operating System
Windows 7	Microsoft(R) Windows(R) 7 Enterprise
	Microsoft(R) Windows(R) 7 Professional
	Microsoft(R) Windows(R) 7 Ultimate

このマニュアルでの表記		正式名称	
Windows Server 2003	Windows Server 2003	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition	
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard Edition	
	Windows Server 2003 (x64)	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise x64 Edition	
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard x64 Edition	
	Windows Server 2003 R2	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise Edition	
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard Edition	
	Windows Server 2003 R2 (x64)	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise x64 Edition	
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard x64 Edition	
	Windows Server 2008	Windows Server 2008	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise
			Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard
Windows Server 2008 (IPF)		Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 for Itanium-based Systems	
Windows Server 2008 (x64)		Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise x64	
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard x64	
Windows Server 2008 R2 (x64)		Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Datacenter x64	
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Enterprise x64	
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Standard x64	
Windows Vista		Microsoft(R) Windows Vista(R) Business	
		Microsoft(R) Windows Vista(R) Enterprise	
	Microsoft(R) Windows Vista(R) Ultimate		
Windows XP Professional	Microsoft(R) Windows(R) XP Professional Operating System		

- Windows 2000 , Windows XP Professional , Windows Server 2003 , Windows Vista , Windows Server 2008 および Windows 7 を総称して Windows と表記することがあります。

このマニュアルで使用する英略語

このマニュアルで使用する英略語を次に示します。

英略語	正式名称
AMD	Advanced Micro Devices
DB	Database
GUI	Graphical User Interface
HTTP	HyperText Transfer Protocol
IPF	Itanium(R) Processor Family
TXT	Text
URL	Uniform Resource Locator
WWW	World Wide Web

図中で使用する記号

このマニュアルの図中で使用する記号を、次のように定義します。

●システム管理者

●ホスト/サーバ

●障害

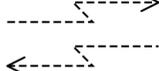
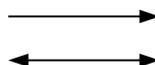
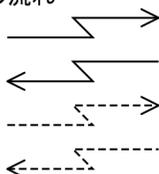
●プログラム



●工程、作業項目の流れ



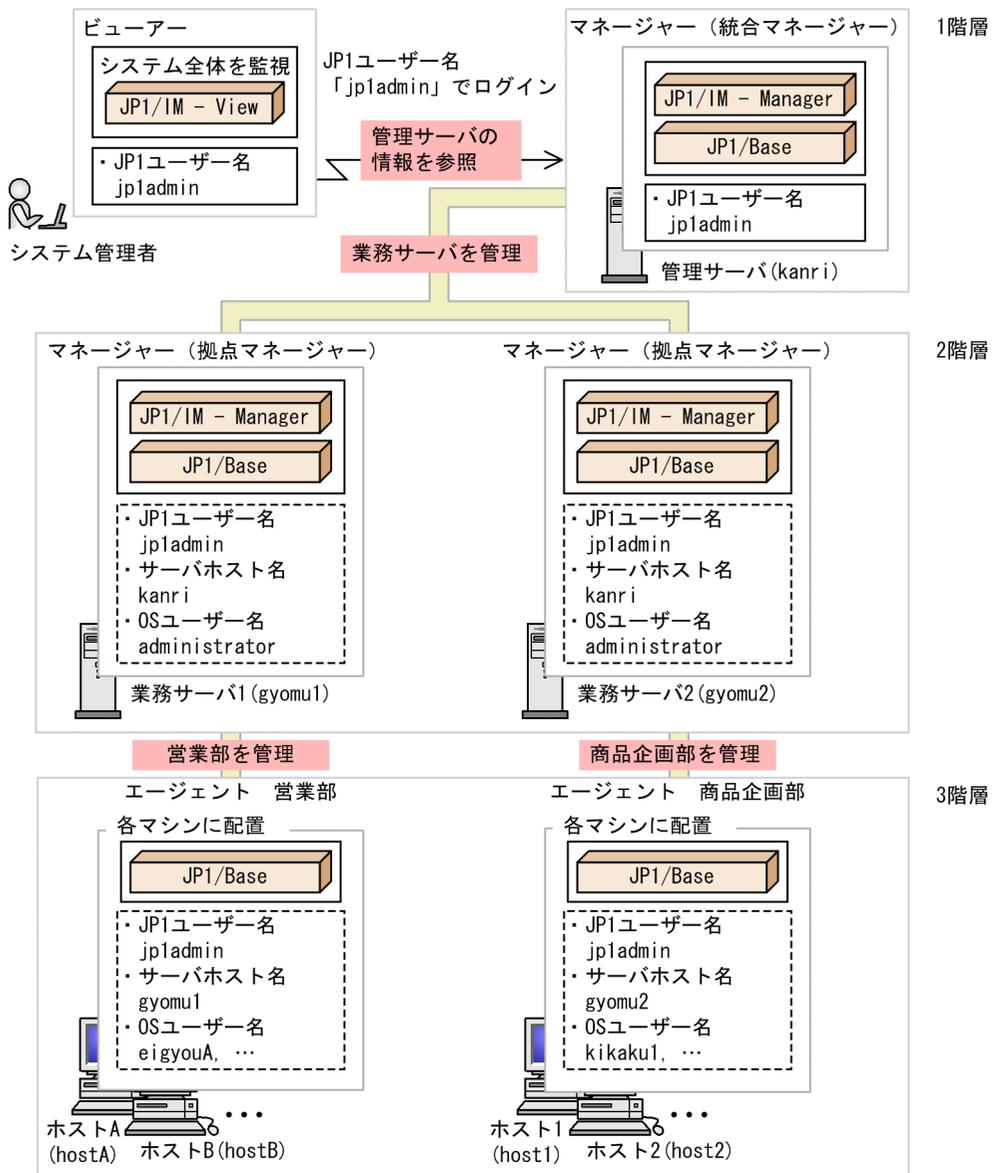
●制御、データの制御 ●その他の流れ



システムの基本構成

JP1/IM - Manager が提供するシステムは、システムを管理するマネージャー、監視対象となるエージェント、システムを監視したり操作したりするビューアーから構成されます。JP1/IM - Manager が提供するシステムは、階層化できます。3 階層のシステムを構築した場合の例を次の図に示します。

なお、このマニュアルでは、JP1/IM - Manager が提供するシステムをシステムと総称します。



(凡例)

[-----] : ユーザーマッピングで設定する内容

JP1ユーザー名 : ログインする場合のJP1ユーザー名

システム管理者は、管理サーバというマネージャー（統合マネージャー）にJP1ユーザー名「jpladmin」でログインし、システム全体をビューアーで監視します。統合マネージャーは、業務サーバ1および業務サーバ2というマネージャー（拠点マネージャー）を管理しています。また、各拠点マネージャーは、営業部または商品企画部のエージェントを管理しています。管理中にコマンドを実行したい場合、ユーザーマッピングでJP1ユーザーとOSユーザーを対応づける必要があります。ユーザーマッピングの手順は、「1.3 ホストに対してコマンドを実行

はじめに

したい」を参照してください。ユーザーマッピングには、図の凡例の「ユーザーマッピングで設定する内容」に示した次の情報が必要です。

- JP1 ユーザー名：どの JP1 ユーザーでコマンドを実行するかを指定します。
- サーバホスト名：どのマネージャーからのコマンドを実行するかを指定します。
- OS ユーザー名：どの OS ユーザーの権限で実行するかを指定します。

注意事項

コマンドを実行する場合は、各 JP1 権限が必要です。

このシステムの構築手順は、「1.1 基本的なシステムを構築したい」を参照してください。すべての製品は、バージョンが 09-00 以降であるとしています。また、JP1/IM - Manager に統合監視 DB および IM 構成管理 DB が設定されていることを前提とします。統合監視 DB および IM 構成管理 DB の設定については、マニュアル「構築ガイド」の「1. インストールとセットアップ (Windows の場合)」または「2. インストールとセットアップ (UNIX の場合)」を参照してください。

システム管理者の JP1 権限レベルについて

このマニュアルでのシステム管理者の JP1 権限レベルは、JP1_Console_Admin 権限および JP1_CF_Admin 権限です。

JP1_Console_Admin 権限は、セントラルコンソールおよびセントラルスコープを操作するときに必要な権限です。

JP1_CF_Admin 権限は、IM 構成管理を操作するときに必要な権限です。

このマニュアルで使用する「Administrators 権限」について

このマニュアルで表記している「Administrators 権限」とは、ローカル PC に対する Administrators 権限です。ローカル PC に対して Administrators 権限を持つユーザーであれば、ローカルユーザー、ドメインユーザー、および Active Directory 環境で動作に違いはありません。

このマニュアルで使用する記号

このマニュアルで使用する記号を次に示します。

記号	意味
[]	メニュー項目、画面名、ボタン名、およびキーボードのキーなどを示す。 例 メニュー項目：[新規作成] 画面名：[ログイン] 画面 ボタン名：[OK] ボタン キーボードのキー：[Ctrl] キー
[] - []	画面のメニューから項目を選択する操作を示す。 例 [ファイル] - [新規作成] を選択する。 上記の例では、メニューバーの [ファイル] を選んで、プルダウンメニューの [新規作成] を選択することを示す。

Windows 版 JP1/IM , JP1/Base のインストール先フォルダの表記
このマニュアルでは , Windows 版 JP1/IM , JP1/Base のインストール先フォルダを次のように表記しています。

製品名	インストール先フォルダの表記	デフォルトインストール先フォルダ
JP1/IM - View	View パス	システムドライブ : %Program Files%\HITACHI\JP1CoView
JP1/IM - Manager	Manager パス	システムドライブ : %Program Files%\HITACHI\JP1IMM
	Console パス	システムドライブ : %Program Files%\HITACHI\JP1Cons
	Scope パス	システムドライブ : %Program Files%\HITACHI\JP1Scope
JP1/Base	Base パス	システムドライブ : %Program Files%\HITACHI\JP1Base

注 各製品をデフォルトのままインストールした場合のインストール先フォルダを表しています。Windows 7 , Windows Server 2008 および Windows Vista の場合 , 「システムドライブ : %Program Files」と表記している部分は , インストール時の OS 環境変数によって決定されるため , 環境によって異なる場合があります。

目次

1	システムの構築	1
1.1	基本的なシステムを構築したい	2
1.1.1	IM 構成管理でシステムを構築しよう	3
1.1.2	正しくシステムが構築できたか確認しよう	4
1.2	業務システムをグループ単位で監視したい	6
1.2.1	業務グループを設定しよう	8
1.2.2	業務グループが正しく設定できたか確認しよう	10
1.3	ホストに対してコマンドを実行したい	12
1.3.1	ユーザーマッピングで JP1 ユーザーと OS ユーザーを対応づけよう	13
1.3.2	コマンドを実行できるか確認しよう	14
1.4	システムで発行されたイベントを一元管理したい	16
1.4.1	セントラルコンソールでシステムを一元管理しよう	17
1.4.2	システムを一元管理できているか確認しよう	18
1.5	システムで発行されたイベントをビジュアルに監視したい	21
1.5.1	セントラルスコープを使えるようにしよう	21
1.5.2	マップ形式やツリー形式で監視できるか確認しよう	24
2	システムの監視	27
2.1	イベントを絞り込んで表示したい	28
2.1.1	表示フィルターで条件を指定しよう	28
2.1.2	条件に合ったイベントが表示されたか確認しよう	29
2.2	運用に合わせてイベントの重大度を変更したい	31
2.2.1	重大度変更機能でイベントの重大度を変更しよう	31
2.2.2	イベントの重大度が変更されているか確認しよう	33
2.3	メンテナンス対象のホストを監視対象から外したい	35
2.3.1	フィルターの共通除外条件で一時的にホストを監視対象から外そう	36
2.3.2	監視対象から外したホストのイベントが表示されていないか確認しよう	37
3	障害の検知	39
3.1	複数のイベントを一つのイベントとして扱いたい	40
3.1.1	関連イベントでイベントを関連づけよう	41
3.1.2	関連イベントが発行されているか確認しよう	43

3.2	特定のイベントが発行されたら自動でコマンドを実行したい	45
3.2.1	自動アクション機能でコマンドを実行しよう	45
3.2.2	コマンドが実行されたか確認しよう	47
3.3	一度実行したアクションを一定の期間だけ実行しないようにしたい	48
3.3.1	自動アクションの抑止でアクションを実行ないようにしよう	49
3.3.2	同じアクションが何度も実行されていないか確認しよう	49

4

障害の調査・対策	51	
4.1	過去に発行されたイベントの状況を確認したい	52
4.1.1	表示開始位置指定機能でイベントの表示時刻を指定しよう	52
4.1.2	指定した表示時刻からイベントが表示されているか確認しよう	53
4.2	イベントを検索したい	55
4.2.1	イベント検索で条件を指定してイベントを検索しよう	55
4.2.2	イベントが検索できたか確認しよう	56
4.3	発行されたイベントの対策方法を事前に登録して表示したい	57
4.3.1	イベントガイド機能で対策方法を登録しよう	57
4.3.2	対策方法が登録されたか確認しよう	59

索引

1

システムの構築

この章では、システムの構成を定義・管理する方法や、イベントを監視するための準備について説明します。

1.1 基本的なシステムを構築したい

1.2 業務システムをグループ単位で監視したい

1.3 ホストに対してコマンドを実行したい

1.4 システムで発行されたイベントを一元管理したい

1.5 システムで発行されたイベントをビジュアルに監視したい

1.1 基本的なシステムを構築したい

JP1/IM - Manager を使用すると、業務システムで発行されたイベントを一元管理できません。そのためには、業務システムどおりにシステムの階層構成（IM 構成）を定義する必要があります。システムの階層構成の定義には、IM 構成管理を使用する方法と、JP1/Base が提供する構成管理機能を使用する方法があります。ここでは、IM 構成管理を使用して、基本的なシステムの階層構成を構築しましょう。

問題

1. 業務システムの構築が完了した。
2. 次は、システム監視の設定が必要。効率的な方法はないかなあ。

営業部 商品企画部 業務サーバ1
 ホストA ホストB ホスト1 ホスト2 業務サーバ2

The diagram illustrates a network topology. On the left, the '営業部' (Sales Department) has two hosts, 'ホストA' and 'ホストB'. In the middle, the '商品企画部' (Product Planning Department) has two hosts, 'ホスト1' and 'ホスト2'. On the right, there are two server racks labeled '業務サーバ1' and '業務サーバ2'. A '管理サーバ' (Management Server) is also indicated near the servers.

対策

1. IM構成管理を使用してみてはどうだろう。
2. 基本的なシステムを構築できそうだ。
3. 業務システムに合わせてシステムを設定しよう。

■画面名：
 ・ [IM構成管理] 画面
 ・ [ホストの登録] 画面
 ・ [エージェント構成編集] 画面…

■設定が必要な項目
 ・ ホスト一覧の作成
 ・ システムの階層構成の構築
 ・ JP1/Baseの動作環境構築…

The screenshot shows the 'IM Configuration Management' software interface. It features a tree view on the left and a table with columns for '名前' (Name), 'IPアドレス' (IP Address), 'ポート' (Port), and 'タイプ' (Type). The table contains several entries representing hosts and servers.

確認

業務システムに、IM構成管理で設定した情報が反映されているか確認しよう。

比較

管理サーバ

業務サーバ1 業務サーバ2

営業部 商品企画部
 ホストA ホストB ホスト1 ホスト2

The diagram shows a '比較' (Comparison) process. A double-headed arrow connects a screenshot of the IM Configuration Management interface to a '管理サーバ' (Management Server). Below the management server, two '業務サーバ' (Business Servers) are shown, labeled '業務サーバ1' and '業務サーバ2'. These servers are connected to their respective departments: '営業部' (Sales Department) with hosts 'ホストA' and 'ホストB', and '商品企画部' (Product Planning Department) with hosts 'ホスト1' and 'ホスト2'.

1.1.1 IM 構成管理でシステムを構築しよう

システムを構築するには、IM 構成管理を使用します。IM 構成管理とは、JP1/IM - Manager が提供する機能の一つで、システムを構成する各ホストの階層構成を一元的に管理する機能です。

システムの階層構成は、[IM 構成管理] 画面から設定します。

画面の表示方法

スタートメニューから [プログラム] - [JP1_Integrated Management - View] - [構成管理] を選択すると [ログイン] 画面が表示されます。[IM 構成管理] 画面は、[ログイン] 画面からログインすると表示されます。

「はじめに」の「システムの基本構成」で定義したシステムを構築しましょう。

前提条件

- 管理対象の各ホストに JP1/Base がインストールされている。
- 業務サーバ 1 (拠点マネージャー)、業務サーバ 2 (拠点マネージャー)、および管理サーバ (統合マネージャー) に JP1/IM - Manager がインストールされている。

システムの階層構成は、次の手順で定義します。

1. ホストの登録
2. システムの階層構成の定義

それぞれの手順を次に示します。

(1) ホストの登録

ホストは、[ホスト登録] 画面から登録します。

画面の表示方法

[ホスト登録] 画面は、[IM 構成管理] 画面から [ホスト一覧] タブを選択し、[編集] - [ホスト登録] を選択すると表示されます。

システムを構成するホストを登録しましょう。



システムを構成するサーバやホストの名前を登録してください。
例：hostA

ホストの種類を「物理ホスト」、「論理ホスト」、「仮想ホスト」および「不明」から選択して、必要な情報を入力してください。
例：物理ホスト

1. システムの構築

同様に、システムの階層構成のとおりにすべてのホストを登録してください。

(2) システムの階層構成の定義

システムの階層構成は、[エージェント構成編集] 画面から定義します。

画面の表示方法

[エージェント構成編集] 画面は、[IM 構成管理] 画面から [編集] - [エージェント構成編集] を選択すると表示されます。

登録したホストを階層どおりに設定しましょう。

IM構成ツリー

ドラッグ & ドロップ

次のような階層を作成するために、[ホスト一覧] から [IM構成ツリー] に各ホストをドラッグ&ドロップします。

例：業務サーバ1を管理サーバの下にドラッグ&ドロップ

設定が終了したら、[更新権取得] チェックボックスをチェックします。そのあと、[エージェント構成編集] 画面の [操作] - [エージェント構成の反映] を選択し、定義を反映してください。

参照先

- 導入・設計ガイド 6. IM 構成管理によるシステムの階層構成の管理
- 構築ガイド 1.9 システムの階層構成の設定 (IM 構成管理を使用する場合)
- 構築ガイド 1.20.2 IM 構成管理・ビューアーのセットアップ
- 運用ガイド 8. IM 構成管理によるシステムの階層構成の管理
- 画面リファレンス 4. IM 構成管理の画面

1.1.2 正しくシステムが構築できたか確認しよう

IM 構成管理で正しくシステムの構築ができたかどうかを確認しましょう。

1. [IM 構成管理] 画面の [IM 構成] ページを選択します。

この例では、「はじめに」の「システムの基本構成」と同じ構成の表示になっていることを確認してください。



キーワード

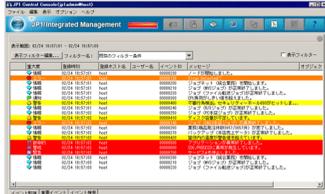
GUI, 構成管理, 構成, システム, IM 構成管理, 監視

1.2 業務システムをグループ単位で監視したい

JP1/IM - Manager は、システム管理者やユーザーが管理したい業務システムごとにグループを設けることができます。グループを設定すると、システム管理者はすべての業務システムを監視・操作できたり、営業部の業務システムのユーザー A さんは、営業部のシステムだけを操作できたりします。グループを設定して、業務システムをグループごとに監視しましょう。

問題

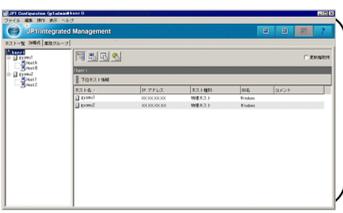
1. 最近、システムが増えて監視が複雑になった。
2. 監視したい単位で、参照・操作を制限して、管理できる方法はないかな。




営業部 商品企画部 業務サーバ1
 ホストA ホストB ホスト1 ホスト2 業務サーバ2
 管理サーバ

対策

1. 業務グループを設定してみよう。
2. グループ単位に操作・表示できそう。
3. 担当に合わせて業務グループを設定しよう。



- 画面名：
 - ・ [業務グループの新規作成] 画面
 - ・ [所属ホストの登録/登録解除] 画面
- 設定が必要な項目
 - ・ 業務グループの作成
 - ・ ホストの登録
 - ・ 参照・操作制限の設定

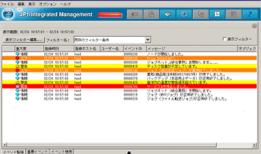
確認

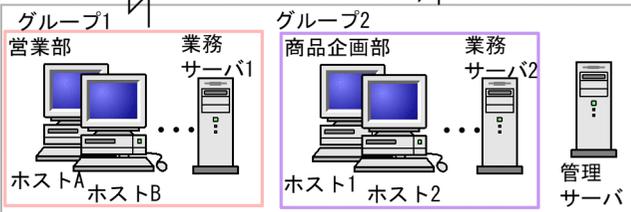
グループ1のイベントだけ操作できた。

営業部の業務システムのユーザーAさん

すべてのイベントに対して操作できた。

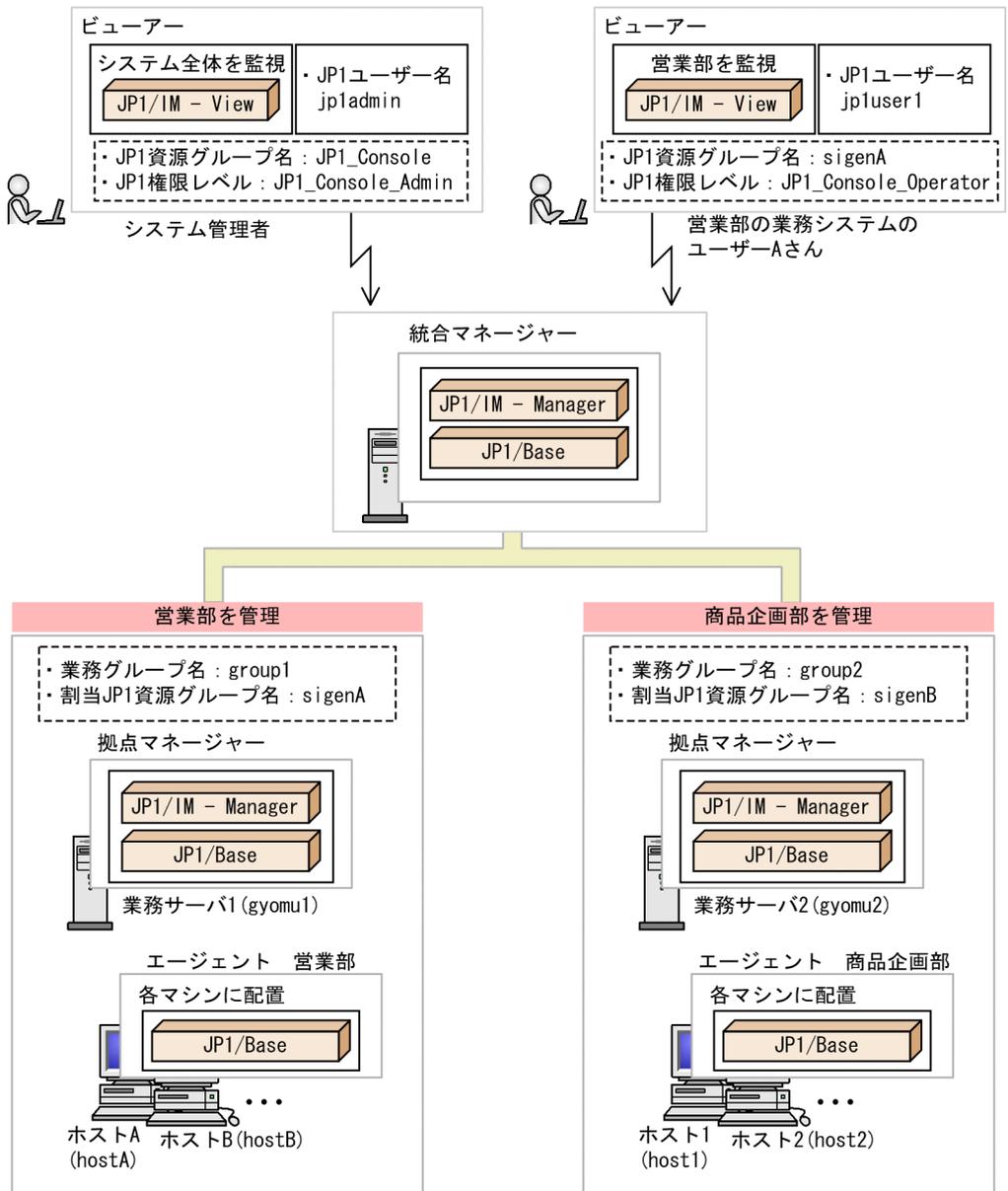
システム管理者





グループ1 グループ2
 営業部 商品企画部
 ホストA ホストB 業務サーバ1 ホスト1 ホスト2 業務サーバ2 管理サーバ

なお、ここでは、業務システムごとにグループで管理するシステムを紹介します。このため、「はじめに」の「システムの基本構成」の図に示す点線部分の条件が追加となります。



(凡例)

- {-----} : 業務グループで設定する内容
- JP1ユーザー名 : ログインする場合のJP1ユーザー名

1.2.1 業務グループを設定しよう

業務システムごとにグループで管理するには、業務グループを設定します。業務グループは次の手順で設定、システムに反映します。

1. 業務グループ用の JP1 ユーザーの設定
2. 業務グループの作成
3. ホストの登録
4. 参照・操作制限の設定

それぞれの手順について説明します。

(1) 業務グループ用の JP1 ユーザーの設定

業務グループを管理するための JP1 ユーザー（JP1 ユーザーに割り当てる JP1 資源グループ名および JP1 権限レベル）を設定します。

マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」のユーザー管理の設定の章を参照して、JP1 ユーザーの JP1 資源グループを次のように設定します。

表 1-1 JP1 資源グループの割り当て

JP1 ユーザー	JP1 資源グループ名	JP1 権限レベル
jpladmin	JP1_Console	JP1_Console_Admin
jpluser1	sigenA	JP1_Console_Operator

JP1/Base が提供するユーザー権限レベルファイルには、次のように記載します。

```
jpladmin:JP1_Console=JP1_Console_Admin  
jpluser1:sigenA=JP1_Console_Operator
```

(2) 参照・操作制限の設定

参照・操作できる範囲を制限するために、業務グループの参照・操作制限を設定します。

前提条件

- IM 構成管理 DB が設定されている。
- 統合監視 DB が設定されている。
- 業務グループの参照・操作制限が有効（jcoimdef -bizmonmode ON）である。
- 発生元ホストのマッピングが有効（jcoimdef -hostmap ON）である。

このコマンドを実行したら、JP1/IM - Manager および JP1/IM - View を再起動してください。

(3) 業務グループの作成

業務グループは、[業務グループの新規作成]画面で作成します。

画面の表示方法

[業務グループの新規作成]画面は、[IM 構成管理]画面の[業務グループ]ページでルートノードを右クリックして表示されるコマンドメニューから[新規作成]を選択すると表示されます。

なお、業務グループを作成する前に、[業務グループ]ページで[更新権取得]チェックボックスをチェックしておく必要があります。

前提条件

- IM 構成管理 DB が設定されている。
- IM 構成管理にホストが登録されている。
- 統合監視 DB が設定されている。

業務グループを作成しましょう。

(4) ホストの登録

どのホストをどの業務グループで管理するかを登録します。ホストは、[所属ホストの登録 / 登録解除]画面で登録します。

画面の表示方法

[所属ホストの登録 / 登録解除]画面は、[IM 構成管理]画面の[業務グループ]ページのツリー表示領域に表示されている、ホストを登録または登録解除したい業務グループのノードを選択し、右クリックして表示されるコマンドメニューから[所属ホストの登録 / 解除]を選択すると表示されます。

なお、ホストを登録する前に、[業務グループ]ページで[更新権取得]チェックボックスをチェックしておく必要があります。

ホストを登録しましょう。

1. システムの構築



業務グループに所属させるために、ホストを登録します。この例では、業務サーバ1をホストA、ホストB、グループ1に所属させるので、gyomu1、hostA、hostBを選択して、[登録] ボタンをクリックします。

設定が終了したら、[操作] - [業務グループ] - [業務グループ反映] を選択し、ホストを反映してください。そのあと、[IM 構成管理] 画面の [業務グループ] ページで [更新権取得] チェックボックスのチェックを外します。

参照先

- 導入・設計ガイド 3.1.4 業務グループの参照・操作制限の仕組み
- 導入・設計ガイド 6.4 業務グループの管理
- 構築ガイド 3.4 業務グループの設定
- 構築ガイド 4.17 業務グループの参照・操作制限の設定
- 画面リファレンス 4.1 [IM 構成管理] 画面
- 画面リファレンス 4.14 [業務グループの新規作成] 画面
- コマンド・定義ファイルリファレンス 1. jcoimdef
- JP1/Base 運用ガイド ユーザー管理の設定をする章

1.2.2 業務グループが正しく設定できたか確認しよう

業務グループが正しく設定できたかどうか確認しましょう。

1. JP1/IM - Manager (セントラルコンソール) に次のようにログインします。

- システム管理者
jp1admin でログインします。
- 営業部の業務システムのユーザー A さん
jp1user1 でログインします。

2. [イベントコンソール] 画面でイベントを確認します。

- システム管理者
すべてのイベントが表示され、操作できます。
- 営業部の業務システムのユーザー A さん
グループ 1 で定義したホストからのイベントだけが表示され、操作できます。

キーワード

業務グループ、監視グループ、独立した監視、JP1 ユーザー、JP1 資源グループ、

JP1 権限レベル, 参照・操作制限



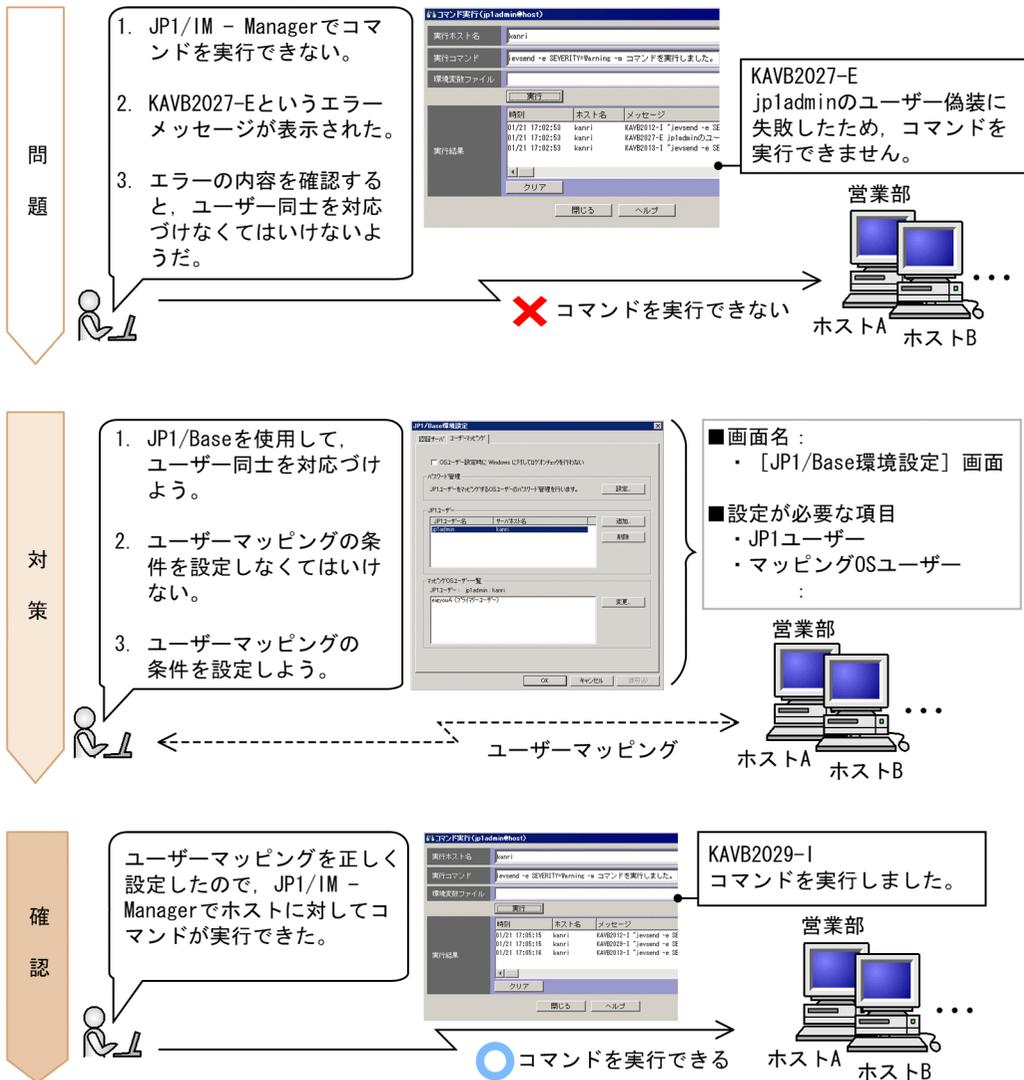
便利メモ

イベントをビジュアルに監視したいとき

業務グループの監視は, セントラルスコープの [監視ツリー] 画面でも利用できます。設定手順は, マニュアル「構築ガイド」の「3.4.4(2) セントラルスコープの監視ツリーに業務グループ情報および監視グループ情報を反映する」を参照してください。

1.3 ホストに対してコマンドを実行したい

システム管理者は、各ホストの JP1/IM - Manager が提供するプロセスの状態確認や、システム環境の設定などのコマンドをセントラルコンソールで実行します。セントラルコンソールとは、JP1/IM - Manager が提供している機能の一つで、システムで発行されたイベントを物理視点でとらえ、システムの運用管理をする機能です。コマンドは、実行先のホスト上の OS ユーザーとして実行されるので、コマンドを実行する JP1 ユーザーと実行先のホスト上の OS ユーザーを対応づける必要があります。OS ユーザーを対応づけて、ホストに対してコマンドを実行しましょう。



1.3.1 ユーザーマッピングで JP1 ユーザーと OS ユーザーを対応づけよう

コマンドを実行する JP1 ユーザーとホスト上の OS ユーザーを対応づけるには、JP1/Base のユーザーマッピングを使用します。ユーザーマッピングを設定すると、管理サーバから商品企画部や営業部のホストにコマンドを実行したり、自動アクションを実行したりできます。自動アクションの設定については、「3.2.1 自動アクション機能でコマンドを実行しよう」を参照してください。

ユーザーマッピングの設定方法を GUI とコマンドに分けて説明します。

前提条件

- マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」のユーザーマッピングを設定する章を参照してすべての前提条件を整えてください。

コマンドを実行する JP1 ユーザー（jp1admin）と OS ユーザー（eigyouA）をユーザーマッピングしてみましょう。なお、ユーザーマッピングの設定は、各ホストで必要です。

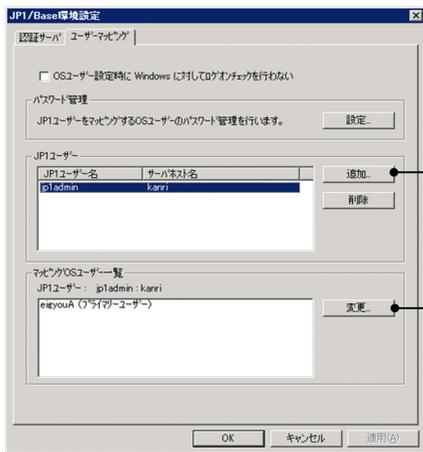
(1) GUI の場合

[JP1/Base 環境設定] ダイアログボックスの [ユーザーマッピング] タブで設定します。

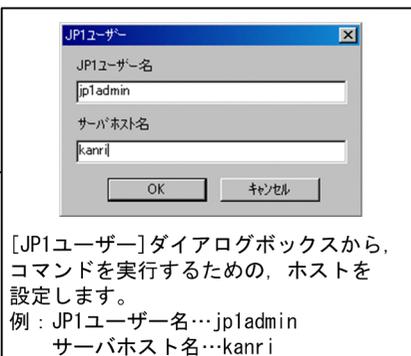
画面の表示方法

[JP1/Base 環境設定] ダイアログボックスは、スタートメニューから [プログラム] [JP1_Base] [環境設定] で起動します。

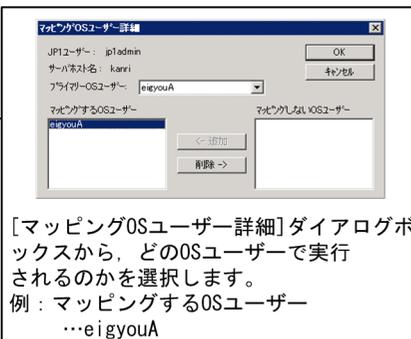
1. システムの構築



[JP1ユーザー]ダイアログボックスから、コマンドを実行するための、ホストを設定します。
例：JP1ユーザー名…jpladmin
サーバホスト名…kanri



[マッピングOSユーザー詳細]ダイアログボックスから、どのOSユーザーで実行されるのかを選択します。
例：マッピングするOSユーザー…eigyousA



参照先

- JP1/Base 運用ガイド ユーザーマッピングを設定する章

(2) コマンドの場合

jbssetumap コマンドで設定します。次のようにコマンドを実行してください。

```
jbssetumap -u jpladmin  
           -sh kanri  
           -o eigyouA
```

参照先

- JP1/Base 運用ガイド ユーザーマッピングを設定する章
- JP1/Base 運用ガイド jbssetumap コマンドの章

1.3.2 コマンドを実行できるか確認しよう

「1.3.1 ユーザーマッピングで JP1 ユーザーと OS ユーザーを対応づけよう」のとおり
に hostA でユーザーマッピングの設定ができていて、マネージャー上でコマンドを実行
できるか確認しましょう。

[コマンド実行] 画面を表示します。

画面の表示方法

[コマンド実行] 画面は , [イベントコンソール] 画面のツールバーから [コマンド実行] ボタンをクリックすると表示されます。

1. [実行ホスト名] にコマンドを実行するホストを次のように指定します。

```
hostA
```

2. [実行コマンド] で JP1/Base の jevsend コマンドを次のように実行します。

```
jevsend -e SEVERITY=Warning -m コマンドを実行しました。
```

この例では , イベント一覧に , 重大度が「警告」でメッセージが「コマンドを実行しました。」というイベントが表示されているかどうかを確認してください。



キーワード

ユーザーマッピング , 対応 , コマンド , 関係

1.4 システムで発行されたイベントを一元管理したい

JP1/IM・Managerは、セントラルコンソールの機能を使って、各エージェントで発行されるイベントを一元管理できます。デフォルトの設定でも発行されたイベントを管理できますが、監視に不要なイベントを一時的に表示しないようにしたり、発行されたイベントに合わせてコマンドを実行したりすると、さらに便利にイベントを管理できます。セントラルコンソールをカスタマイズして、システムで発行されたイベントを一元管理しましょう。

問題

1. ホストやサーバで発生したイベントを状況に合わせて監視したい。
2. 監視を開始する前にどのような機能を設定しておくとう便利だろう。
3. セントラルコンソールの機能を検討してみよう。

対策

1. イベントを監視しやすくするために、フィルタリングや自動アクションを設定しよう。
2. セントラルコンソールの機能を使用して実現できそう。
3. 監視に必要な条件を設定しよう。

- イベントのフィルタリング
 - ・機能：監視したいイベントだけを表示する。
 - ・画面名：[表示フィルター設定]画面
- 関連イベント発行の設定
 - ・機能：関連のあるイベントをまとめて表示する。
 - ・定義ファイル名：関連イベント発行定義ファイル
- 自動アクションの設定
 - ・機能：自動でコマンドを実行する。
 - ・画面名：[アクション設定]画面

確認

イベントが発行されたり、コマンドが自動で実行されたりしていることを確認しよう。

自動アクションの実行（実行の対象： 抑止： 一部抑止：）

種別	重大度	重大度(変更前)	重大度変更	アクション	登録時刻	登録ホスト名
情報	情報	情報	情報		01/23 10:24:24	host
警告	警告	警告	警告		01/23 10:24:24	host
エラー	エラー	エラー	エラー		01/23 10:24:24	host
情報	情報	情報	情報	<input checked="" type="checkbox"/>	01/23 10:24:24	host
情報	情報	情報	情報		01/23 10:24:24	host

関連イベントの発行（成立： 不成立：）

1.4.1 セントラルコンソールでシステムを一元管理しよう

システムで発行されたイベントを一元管理するためには、イベント転送の設定およびセントラルコンソールの機能の設定をする必要があります。イベント転送は、監視に必要なイベントを転送しないように設定できるため、JP1/IM - Manager の負荷を軽減できます。セントラルコンソールの機能は、運用中に発行されるさまざまなイベントを集中監視できます。

イベントを一元管理するために、次を設定します。

1. イベント転送の設定
2. セントラルコンソールの機能の設定

それぞれの手順を次に示します。

(1) イベント転送の設定

イベント転送は、IM 構成管理の [プロファイル表示 / 編集] 画面から設定します。

画面の表示方法

[プロファイル表示 / 編集] 画面は、[IM 構成管理] 画面から [表示] - [プロファイル表示] を選択すると表示されます。

前提条件

- IM 構成管理 DB が設定されている。

イベント転送を設定して、イベントを管理サーバに転送しましょう。



転送設定ファイルを編集します。デフォルトは、to-upper形式です。この場合、イベントは、JP1/IM - Manager で定義された階層に沿って、上位のサーバに転送されます。

変更が必要な管理対象がある場合は、転送設定ファイルを修正してください。



参照先

- 導入・設計ガイド 3.1.1 セントラルコンソールによる監視
- JP1/Base 運用ガイド 転送設定ファイル (forward) の章

1. システムの構築

(2) セントラルコンソールの機能の設定

このマニュアルでは、次の機能について説明します。詳細については、次の表を参照してください。

表 1-2 このマニュアルでのセントラルコンソールの機能

セントラルコンソールの機能	セントラルコンソール機能の概要	 参照先
イベントのフィルタリング	監視の目的に合ったイベントを表示するために、イベントのフィルタリングを設定します。 イベントのフィルタリングは、次に示す 4 種類のフィルターがあります。 <ul style="list-style-type: none">• イベント取得フィルター JP1/Base から取得する JP1 イベントをフィルタリングするためのフィルターです。• ユーザーフィルター ユーザーごとに監視できるイベントをフィルタリング（制限）するためのフィルターです。• 重要イベントフィルター JP1/IM の監視対象となる JP1 イベントのうち、対処が必要となるようなシステムへの影響度が高い JP1 イベントを [重要イベント] ページに表示するためのフィルターです。• 表示フィルター 一時的に特定の JP1 イベントだけを表示するためのフィルターです。	2.1 2.3
関連イベント発行	関連性を持つイベントが発行された場合、新しいイベントを発行します。	3.1
自動アクション	システムに問題が発生した場合に自動的にコマンドを実行します。	3.2 3.3

注 JP1/Base が各エージェントに転送するイベントを選択するための、転送フィルターもありません。

1.4.2 システムを一元管理できているか確認しよう

表 1-2 で示したセントラルコンソールの機能や JP1/Base の転送フィルターが正しく設定できているかどうかマネージャー上で確認しましょう。

イベントのフィルタリング

セントラルコンソールのフィルターおよび JP1/Base の転送フィルターの確認方法を説明します。

イベント取得フィルター

「2.3.2 監視対象から外したホストのイベントが表示されていないか確認しよう」を参照してください。イベント取得フィルターの共通除外条件を使用した場合の確認方法を説明しています。

ユーザーフィルター

デフォルトでは、すべてのイベントがイベント一覧に表示されます。次のように確認します。

1. JPI/Base の `jevsend` コマンドを次のとおり実行します。

```
jevsend -e SEVERITY=Warning -m 警告のイベント
```

```
jevsend -e SEVERITY=Information -m 情報のイベント
```

管理サーバで重大度が「警告」のイベントおよび「情報」のイベントが発行されます。

2. イベント一覧を参照します。

この例では、重大度が「警告」のイベントおよび「情報」のイベントが表示されていることを確認してください。

重要イベントフィルター

デフォルトでは、重大度が「緊急」「警戒」「致命的」および「エラー」のイベントだけがイベント一覧に表示されます。次のように確認します。

1. 「1.3.2 コマンドを実行できるか確認しよう」の手順に従い、[コマンド実行] 画面の項目に次のように入力します。

項目	入力する内容
実行ホスト名	hostA
実行コマンド	jevsend -e SEVERITY=Alert -m 警戒のイベント jevsend -e SEVERITY=Warning -m 警告のイベント

ホスト A で重大度が「警戒」のイベントおよび「警告」のイベントが発行されます。

2. セントラルコンソールの [イベントコンソール] 画面の [重要イベント] タブを参照します。

この例では、重大度が「警戒」のイベントが表示され、「警告」のイベントは表示されていないことを確認してください。

表示フィルター

「2.1.2 条件に合ったイベントが表示されたか確認しよう」を参照してください。

転送フィルター

デフォルトでは、重大度が「緊急」「警戒」「致命的」「エラー」および「警告」のイベントだけを転送します。次のように確認します。

1. 「1.3.2 コマンドを実行できるか確認しよう」の手順に従い、[コマンド実行] 画面の項目に次のように入力します。

項目	入力する内容
実行ホスト名	hostA
実行コマンド	jevsend -e SEVERITY=Warning -m 警告のイベント jevsend -e SEVERITY=Information -m 情報のイベント

1. システムの構築

ホスト A で重大度が「警告」のイベントおよび「情報」のイベントが発行されます。

2. イベント一覧を参照します。

この例では、重大度が「警告」のイベントが表示され、「情報」のイベントは表示されていないことを確認してください。

関連イベント発行

「3.1.2 関連イベントが発行されているか確認しよう」を参照してください。

自動アクション

「3.2.2 コマンドが実行されたか確認しよう」および「3.3.2 同じアクションが何度も実行されていないか確認しよう」を参照してください。



キーワード

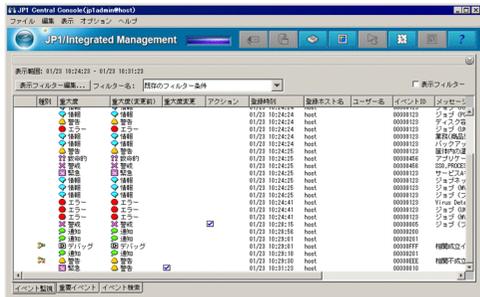
一元管理，セントラルコンソール，イベント，監視，論理的

1.5 システムで発行されたイベントをビジュアルに監視したい

セントラルコンソールの [イベントコンソール] 画面では、到着した順番でイベントがイベント一覧に表示されます。イベント一覧では、イベントの発行元ホストは判別できませんが、イベントが及ぼす影響範囲は瞬時に判断できません。ホストを階層構成で表示したり設置場所を表示したりすることで、システムで発行されたイベントの影響範囲が直感的にわかります。影響範囲を直感的に把握するために、システムで発行されたイベントをビジュアルに監視しましょう。

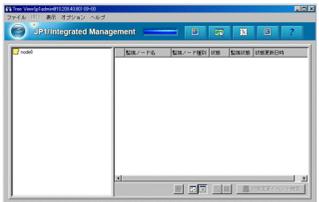
問題

1. イベントが一覧で表示されると、影響範囲が瞬時にわからない。
2. 視覚的に把握する方法はなかなあ。



対策

1. セントラルスコープの機能で実現できるらしい。
2. ビジュアルな監視するために、条件を設定しよう。



■ 画面名 :

- ・ [新規監視ノード作成] 画面
- ・ [ビジュアル監視 (編集)] 画面

■ 条件の設定

- ・ 監視ノード名
- ・ 監視ノード種別

確認

ビジュアルな監視ができるので、どこでイベントが発生しているかがわかりやすい。



1.5.1 セントラルスコープを使えるようにしよう

システムで発行されたイベントをビジュアルに監視するためには、セントラルスコープを使用します。セントラルスコープとは、JP1/IM・Manager が提供している機能の一つで、システムで発行されるイベントを論理視点でとらえ、システムの運用管理をする機

1. システムの構築

能です。

セントラルスコープを使用すると、イベントを監視目的に合わせたツリー形式で表示したり、監視が必要なポイントを絞ったマップ形式で表示したりできます。

前提条件

- jcsdbsetup コマンドでセントラルスコープのデータベースが作成されている。
- セントラルスコープサービスが有効 (jcoimdef -s ON) である。

「1.1 基本的なシステムを構築したい」で構築したシステムをセントラルスコープで監視できるように設定し、重大度が「警告」のイベントをホスト A から受信したら監視ノードの状態が変わるというように設定してみましょう。

ツリー形式とマップ形式の設定方法をそれぞれ説明します。

(1) ツリー形式の設定方法

ツリー形式で表示するためには、監視ノードを追加します。監視ノードの追加は、[新規監視ノード作成] 画面から設定します。

画面の表示方法

[新規監視ノード作成] 画面は、[監視ツリー (編集)] 画面の [編集] - [新規監視ノード作成] を選択すると表示されます。



システムを構成しているサーバやホストの名前を入力してください。
例: kanri

監視ノード名で指定したサーバやホストによって監視ノードの種別を選択してください。
最下位の階層の場合: 監視オブジェクト
上位の場合: 監視グループ

ここでは、監視ノード名で「管理サーバ」を指定しているので、「監視グループ」を選択してください。

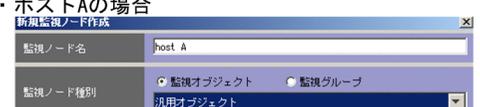


管理サーバが作成されたら、同様に [新規監視ノード作成] 画面で、業務サーバ1やホストAを作成します。

- 業務サーバ1の場合



- ホストAの場合



(2) 監視ノードの属性設定

監視ノードの属性を設定すると、監視ノードで使用するアイコンを変更したりイベントを受信したとき監視ノードの状態を変更したりできます。監視ノードの属性は、監視ノードの [プロパティ] 画面で設定します。

画面の表示方法

[プロパティ] 画面は、監視ノードを選択したあと、右クリックしてポップアップメニューから [プロパティ] を選択すると表示されます。

ホスト A の [プロパティ] 画面を開きます。[状態変更条件] タブを選択し、[追加] ボタンをクリックします。

状態変更条件設定

変更条件

条件名: ホストAの警告イベント

状態: 警告

共通条件

条件: [共通条件設定]

個別条件

属性名: [] 属性値: [] 条件: [と一致する]

条件

[追加] [編集] [削除]

OK キャンセル ヘルプ

条件名を入力します。
例: ホストAの警告イベント

状態を選択します。
この例では、「警告」という状態にしたいので、「警告」を選択します。
例: 警告

[共通条件設定] ボタンをクリックします。
[共通条件設定] 画面が表示されるので、[追加] をクリックします。
[共通条件詳細設定] 画面が表示されます。

共通条件詳細設定

共通条件名: ホストA

共通条件詳細

登録ホスト: hostA [と一致する]

重大度: 緊急 警戒 致命的 エラー 警告 通知 情報 デバッグ

オブジェクトタイプ: [] [と一致する]

オブジェクト名: [] [と一致する]

登録名タイプ: [] [と一致する]

共通条件名を入力します。
例: ホストA

対象とするホスト名を入力します。
この例では、ホストAからのイベントを対象にしたいので、ホストAを指定します。
例: hostA

イベントの重大度を指定します。
例: 警告

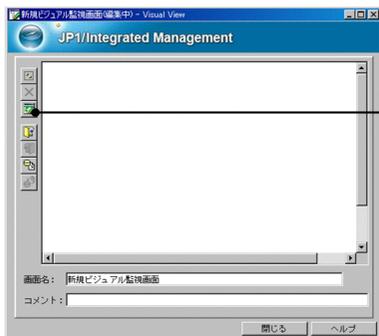
(3) マップ形式の設定方法

マップ形式で表示するためには、[ビジュアル監視] 画面を作成します。[ビジュアル監視] 画面は、[ビジュアル監視 (編集)] 画面から設定します。

画面の表示方法

1. システムの構築

[ビジュアル監視 (編集集中)] 画面は, [監視ツリー (編集集中)] 画面のメニューバーから [編集] - [新規ビジュアル監視画面作成] を選択すると表示されます。



運用に合わせた配置になるように、監視したいホストを選択してください。
アイコンを [監視ツリー (編集集中)] 画面でドラッグして、[ビジュアル監視 (編集集中)] 画面へドロップしてください。

ドラッグ&ドロップ



参照先

- ・ 構築ガイド 5.3.1 監視ツリーの編集画面の起動
- ・ 構築ガイド 5.3.3 監視ツリーの自動生成
- ・ 構築ガイド 5.4.1 [ビジュアル監視] 画面の編集画面の起動
- ・ 構築ガイド 5.4.3 [ビジュアル監視] 画面のカスタマイズ
- ・ コマンド・定義ファイルリファレンス 1. jcsdbsetup
- ・ コマンド・定義ファイルリファレンス 1. jcoimdef

1.5.2 マップ形式やツリー形式で監視できるか確認しよう

セントラルスコープを設定したあと、システムどおりにマップ形式やツリー形式でイベントが監視できているかどうか確認しましょう。

1. 「1.3.2 コマンドを実行できるか確認しよう」の手順に従い,[コマンド実行] 画面の項目に次のように入力します。

項目	入力する内容
実行ホスト名	hostA
実行コマンド	jevsend -e SEVERITY=Warning -m 警告イベントの発行 jevsend -e SEVERITY=Error -m エラーイベントの発行

ホスト A で重大度が「警告」および「エラー」のイベントが発行されます。

2. [監視ツリー] 画面および [ビジュアル監視] 画面を確認します。
監視ノードのうち、障害が起こった監視ノードおよびその監視ノードを含む監視グループが自動的に障害状態に変化します。

この例の場合、重大度が「警告」のイベントが発行されたときには、ホスト A およびホスト A を含む監視グループが黄色になっていることを確認してください。また、重大度が「エラー」のイベントでは、変化しないことを確認してください。



キーワード

GUI, 視覚, イベント, ツリー, グラフィック, 監視ツリー, セントラルスコープ, 目的指向, ビジュアル

2

システムの監視

この章では、イベント一覧に表示されたイベントを一時的に絞り込んで表示したり、イベントの重大度をカスタマイズしたりする方法を説明します。

2.1 イベントを絞り込んで表示したい

2.2 運用に合わせてイベントの重大度を変更したい

2.3 メンテナンス対象のホストを監視対象から外したい

2.1 イベントを絞り込んで表示したい

ビューアーを使用してイベントを監視すると、ホストで発行されたイベントがイベント一覧に表示されます。ホストや重大度などの条件が決まっている場合、その条件に合わせて監視したいイベントだけを表示できます。条件を指定して、イベントを一時的に絞り込んで表示しましょう。

問題

1. 営業部のホストBでイベントが多く発行されているようだ。
2. ホストBから発行されているイベントについて調査が必要だ。
3. ホストBから発行される重大度が「エラー」のイベントを一時的に表示する方法はないかなあ。



営業部 エラー
情報
警告
情報
通知
情報
エラー
ホストB

対策

1. イベントの表示方法を指定しよう。
2. 表示フィルターを使用して実現できそうだ。
3. ホストBから発行される重大度が「エラー」のイベントを表示する条件を設定しよう。



■ 画面名：
[表示フィルター設定]
画面

■ 条件の設定
・登録ホスト名
・重大度
:

確認

ホストBの重大度が「エラー」のイベントだけがイベント一覧に表示されていることを確認しよう。

(凡例) : ● 表示される
 × 表示されない



営業部 エラー
情報
警告
情報
通知
情報
エラー
ホストB

2.1.1 表示フィルターで条件を指定しよう

イベントを絞り込んで表示するには、表示フィルターを使用します。表示フィルターは、

セントラルコンソールの [表示フィルター設定] 画面で設定します。

画面の表示方法

[表示フィルター設定] 画面は, [イベントコンソール] 画面の [イベント監視] ページで [表示フィルター編集] をクリックすると表示されます。

前提条件

- なし

ホスト B で発行された重大度が「エラー」のイベントをイベント一覧に表示するように、設定してみましょう。

表示フィルター設定

フィルター名: 既存のフィルター

条件群

条件群名: 既存条件群

条件一覧

登録ホスト名: hostB

重大度: 緊急 警戒 致命的 エラー 警告 通知 情報 デバッグ

オブジェクトタイプ: と一致する

オブジェクト名: と一致する

登録名タイプ:

登録名:

事象種別:

ユーザー名:

メッセージ:

プロダクト名:

イベントID: と一致する

対処状況: 対処済 未対応 処理中 保留

アクション: 対象 対象外

OK キャンセル ヘルプ

登録ホスト名 設定:

監視したいホストのホスト名を入力します。
例: hostB

指定したホストに対する条件を選択します。
例: と一致する

重大度 設定:

重大度を選択します。
例: エラー

設定が完了したら, [表示フィルター設定] 画面の [OK] ボタンをクリックして, フィルターの条件を登録してください。



参照先

- 構築ガイド 4.2.1 表示フィルターを設定する
- 画面リファレンス 2.21 [表示フィルター設定] 画面

2.1.2 条件に合ったイベントが表示されたか確認しよう

表示フィルターで条件を指定したあと, 条件に合ったイベントが表示されているかどうか確認しましょう。

- [イベントコンソール] 画面の [表示フィルター] チェックボックスをチェックしま

2. システムの監視

す。

指定した条件のイベントがイベント一覧に表示されます。

この例では、ホスト B で発行された重大度が「エラー」のイベントが表示されていることを確認してください。



キーワード

表示、イベント、特定、フィルタリング、表示フィルター



便利メモ

表示されるメッセージを「見やすく」「わかりやすく」したいとき

JP1/Integrated Management - Message Optimizer と連携してメッセージのフォーマットを変換したり、テキストを変換したりすることで、重要なメッセージの見逃し、対応の遅れなどを未然に防ぐことができます。

2.2 運用に合わせてイベントの重大度を変更したい

JP1/IM・Manager では、イベントの種類によって重大度があらかじめ設定されています。しかし、発行されたホストの状態やシステムの運用状況によって、あらかじめ設定されている重大度にイベントの重大度が合わない場合があります。システムの運用に合った重大度でイベントを監視するために、運用に合わせてイベントの重大度を変更しましょう。



1. イベントの重大度が運用に合っていないようだ。
2. 重大度の設定を変更する方法はなかったかなあ。



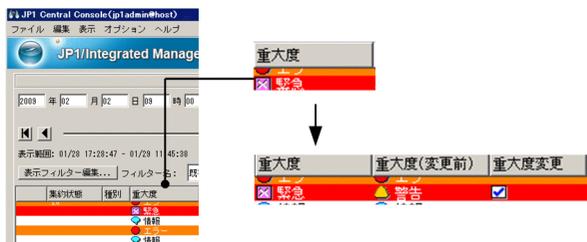
1. 運用に合わせた重大度を検討しよう。
2. 重大度の変更は、重大度変更機能を使用して実現できそうだ。
3. 重大度を「警告」から「緊急」に変更する条件を設定しよう。



- ファイル名 : 重大度変更定義ファイル (jcochsev.conf)
- 条件の設定
 - ・ 定義名
 - ・ イベントの比較条件
 - ・ 変更後の重大度



重大度変更定義ファイルで設定した重大度でイベント一覧に表示されていることを確認しよう。



2.2.1 重大度変更機能でイベントの重大度を変更しよう

運用に合わせてイベントの重大度を変更するには、イベントの重大度変更機能を使用し

2. システムの監視

まず、重大度変更機能は、重大度変更定義ファイルで設定します。

前提条件

- 統合監視 DB が設定されている。
- イベントの重大度変更機能が有効である。

ホスト A で発行された重大度が「警告」と一致するイベントの重大度を、「緊急」に変更するように設定してみましょう。

次に示す格納先の重大度変更定義ファイル (jcochsev.conf) をテキストエディターで開きます。

- Windows の場合：
 - 物理ホストのとき
Console パス ¥conf¥chsev¥jcochsev.conf
 - 論理ホストのとき
共有フォルダ ¥jplcons¥conf¥chsev¥jcochsev.conf
- UNIX の場合：
 - 物理ホストのとき
/etc/opt/jplcons/conf/chsev/jcochsev.conf
 - 論理ホストのとき
共有ディレクトリ /jplcons/conf/chsev/jcochsev.conf ()

次のように記述します。

```
DESC VERSION=1
def 重大度変更1
    cnd
        E.SEVERITY IN Warning
        B.SOURCESERVER IN hostA
    end-cnd
sev Emergency
end-def
```

記述内容を説明します。

記述内容	説明
cnd E.SEVERITY IN Warning B.SOURCESERVER IN hostA end-cnd	イベントを比較するために、比較条件を指定します。 ここでは、次のように指定します。 <ul style="list-style-type: none">• 重大度が「警告」と一致する。 E.SEVERITY IN Warning• イベントの発行元がホスト A と一致する。 B.SOURCESERVER IN hostA

記述内容	説明
sev Emergency	<p>イベント条件に一致したイベントの重大度を変更するために、変更したい重大度を指定します。</p> <p>ここでは、次のように指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 重大度を「緊急」に変更する。 <pre>sev Emergency</pre>

マネージャー上で `jco_spmc_reload` コマンドを実行するか、JP1/IM・Manager を再起動すると、定義した内容が反映されます。



参照先

- 導入・設計ガイド 11.1.6 JP1 イベントの重大度変更の検討
- 構築ガイド 4.10 重大度変更機能の設定
- コマンド・定義ファイルリファレンス 2. 重大度変更定義ファイル (`jcochsev.conf`)

2.2.2 イベントの重大度が変更されているか確認しよう

重大度変更機能で条件を指定したあと、イベントの重大度が変わってイベント一覧に表示されているかどうか確認しましょう。

1. 「1.3.2 コマンドを実行できるか確認しよう」の手順に従い、[コマンド実行]画面の項目に次のように入力します。

項目	入力する内容
実行ホスト名	hostA
実行コマンド	<code>jevsend -e SEVERITY=Warning</code>

ホスト A で重大度が「警告」のイベントが発行されます。

この例では、重大度が「緊急」に変更され、イベント一覧に次のように表示されることを確認してください。

2. システムの監視

The screenshot shows the JP1 Central Console interface. At the top, it displays 'JP1/Integrated Management' and a menu bar with 'ファイル', '編集', '表示', 'オプション', and 'ヘルプ'. Below the menu is a date and time display: '2009 年 02 月 25 日 08 時 00 分 00 秒 表示 表示キャンセル' and '状態: 最新表示'. A filter section shows '表示フィルター編集...' and 'フィルター名: 既存のフィルター条件'. The main area contains a table of event logs with columns: '集約状態', '種別', '重大度', '重大度(変更前)', '重大度変更', 'アクション', '登録時刻', and '登録者'. A red line connects a row in the table to a detailed view of severity levels below.

集約状態	種別	重大度	重大度(変更前)	重大度変更	アクション	登録時刻	登録者
	緊急	警告		<input checked="" type="checkbox"/>		02/25 10:34:29	host
	情報	情報		<input checked="" type="checkbox"/>		02/25 10:34:29	host
	エラー	エラー		<input checked="" type="checkbox"/>		02/25 10:34:29	host
	情報	情報		<input checked="" type="checkbox"/>		02/25 10:34:29	host
	警告	警告		<input checked="" type="checkbox"/>		02/25 10:34:29	host

重大度	重大度(変更前)	重大度変更
<input checked="" type="checkbox"/> 緊急	<input checked="" type="checkbox"/> 警告	<input checked="" type="checkbox"/>

なお、デフォルトでは、「重大度(変更前)」および「重大度変更」の項目はイベント一覧に表示されません。[ユーザー環境設定] 画面でこれらの項目を表示するように設定することをお勧めします。

キーワード

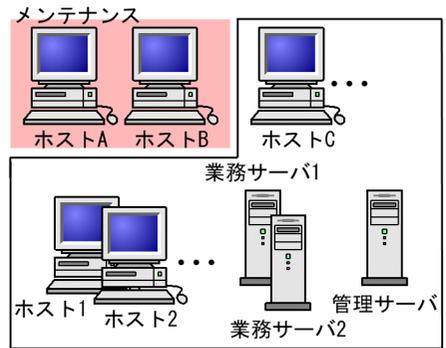
重大度, 変更, 監視, 定義, 重大度変更機能

2.3 メンテナンス対象のホストを監視対象から外したい

ホストのメンテナンス中は、サーバの再起動などに伴った、システムの監視に不要なイベントが大量に発行されます。そのため、システムの監視に不要なイベントがイベント一覧に表示され、必要なイベントを確認しにくくなります。不要なイベントを表示しないようにするために、メンテナンス対象のホストを監視対象から外しましょう。

問題

1. 営業部のホストAとホストBをメンテナンスしたい。
2. でも、メンテナンス中のホストからもイベントが発行されるなあ。
3. メンテナンス中ホストは監視が不要だ。なにかいい方法はないかなあ。



対策

1. メンテナンス中は、ホストAとホストBを監視対象から外す方法を検討しよう。
2. 共通除外条件を使用して実現できそうだ。
3. ホストAとホストBを監視対象から外すイベントの条件を設定しよう。



■画面名：
[共通除外条件設定]画面

■条件の設定
・登録ホスト名
:

確認

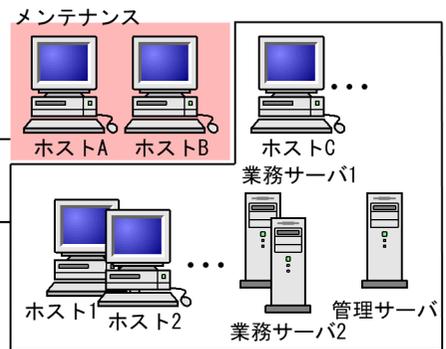
営業部のホストAとホストBから発行されたイベントがイベント一覧に表示されていないことを確認しよう。



発生時刻	種別	発生ホスト	発生原因(変更前)	発生原因(変更後)	アクション
08:00:00	警告	ホストA	サービス停止	サービス停止	監視
08:00:00	警告	ホストB	サービス停止	サービス停止	監視
08:00:00	警告	ホストC	サービス停止	サービス停止	監視
08:00:00	警告	ホスト1	サービス停止	サービス停止	監視
08:00:00	警告	ホスト2	サービス停止	サービス停止	監視
08:00:00	警告	業務サーバ1	サービス停止	サービス停止	監視
08:00:00	警告	業務サーバ2	サービス停止	サービス停止	監視
08:00:00	警告	管理サーバ	サービス停止	サービス停止	監視

✗ 表示されない

○ 表示される



注意事項

2. システムの監視

JP1/IM - Manager を含めたシステム全体をメンテナンスする場合は、上位ホストから下位ホストの順でメンテナンスしてください。

2.3.1 フィルターの共通除外条件で一時的にホストを監視対象から外そう

メンテナンス対象のホストを監視対象から外すには、フィルターの共通除外条件を使用します。共通除外条件は、セントラルコンソールの [共通除外条件設定] 画面で設定します。共通除外条件は、アクションの対象となるイベントも監視対象から外すことができます。

画面の表示方法

[共通除外条件設定] 画面は、[イベント取得条件一覧] 画面で、共通除外条件群一覧の [追加] ボタンをクリックします。

前提条件

- なし

例えば、ホスト A とホスト B をメンテナンスしていた場合に、ホスト A とホスト B で発行されたイベントを監視対象から外すよう設定してみましょう。





参照先

- 導入・設計ガイド 3.2.6 フィルターの条件定義
- 導入・設計ガイド 12.10 JP1/IM が監視するシステム全体のメンテナンスの検討
- 構築ガイド 4.2.4 イベント取得フィルターを設定する
- 画面リファレンス 2.15 [共通除外条件設定]画面

2.3.2 監視対象から外したホストのイベントが表示されていないか確認しよう

フィルターの共通除外条件で条件を指定したあと、監視対象から外したホストのイベントがイベント一覧に表示されていないかどうか確認しましょう。

1. [共通除外条件設定]画面の[OK]ボタンをクリックします。
[イベント取得条件一覧]画面が表示されます。
2. [イベント取得条件一覧]画面の[OK]ボタンをクリックします。
[システム環境設定]画面が表示されます。
3. [システム環境設定]画面の[適用]ボタンをクリックします。
指定した条件が定義されます。
4. 「1.3.2 コマンドを実行できるか確認しよう」の手順に従い、[コマンド実行]画面の[コマンド実行]で項目に次のように入力します。

項目	入力する内容
実行ホスト名	hostA
実行コマンド	jevsend -e SEVERITY=Warning -m ホスト A からコマンドを実行しました。

ホスト A で重大度が「警告」のイベントが発行されます。

5. 手順 4 を繰り返します。[コマンド実行]画面の[コマンド実行]で項目に次のように入力します。

項目	入力する内容
実行ホスト名	hostB
実行コマンド	jevsend -e SEVERITY=Warning -m ホスト B からコマンドを実行しました。

ホスト B で重大度が「警告」のイベントが発行されます。

6. 手順 4 を繰り返します。[コマンド実行]画面の[コマンド実行]で項目に次のように入力します。

2. システムの監視

項目	入力する内容
実行ホスト名	hostC
実行コマンド	jevsend -e SEVERITY=Warning -m ホスト C からコマンドを実行しました。

ホスト C で重大度が「警告」のイベントが発行されます。

この例では、ホスト A およびホスト B で発行された重大度が「警告」のイベントはイベント一覧に表示されないで、ホスト C で発行された重大度が「警告」のイベントだけがイベント一覧に表示されることを確認してください。



キーワード

項目, フィルター, 共通除外条件, 特定, ホスト

3

障害の検知

この章では、複数のイベントを一つのイベントとして表示したり、障害の検知に合わせて自動でコマンドを実行したりする方法を説明します。

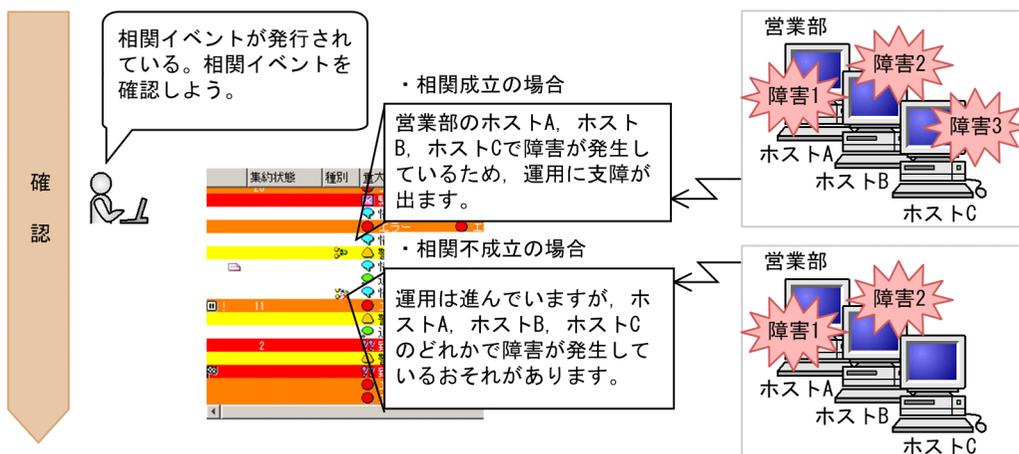
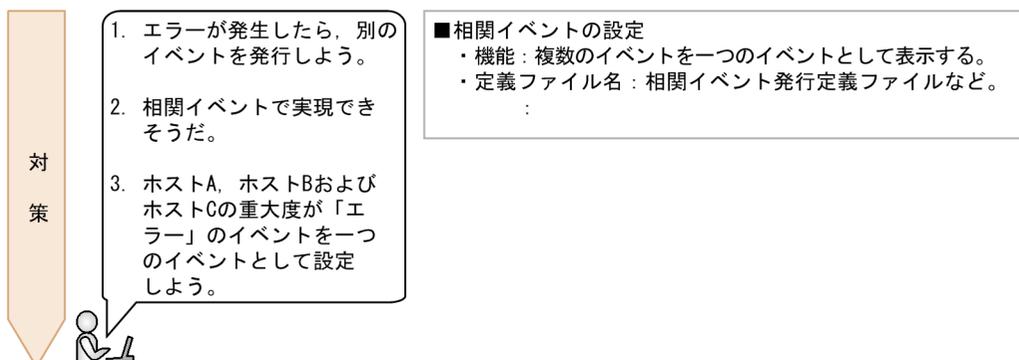
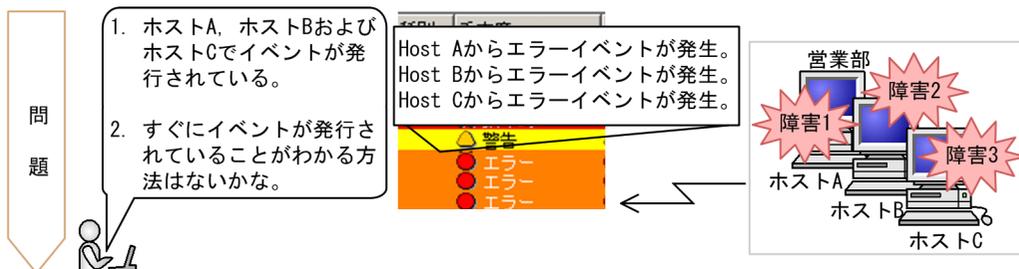
3.1 複数のイベントを一つのイベントとして扱いたい

3.2 特定のイベントが発行されたら自動でコマンドを実行したい

3.3 一度実行したアクションを一定の期間だけ実行しないようにしたい

3.1 複数のイベントを一つのイベントとして扱いたい

システムを起動したり障害が発生したりした場合に、連動して発行されるイベントがあります。連動して発行されるイベントの順番や組み合わせによっては、イベントに早く対処する必要があります。早く対処するイベントを見極めるために、複数のイベントを一つの障害として扱きましょう。



3.1.1 関連イベントでイベントを関連づけよう

複数のイベントを一つの障害として扱うには、関連イベントを使用します。関連イベントは、関連イベント発行定義ファイルで設定します。

前提条件

- 関連イベント発行機能が有効である。

関連成立または関連不成立の場合に、次のようなイベントが発行されるように設定してみましょう。

関連成立の場合

- 関連成立の条件
ホスト A, ホスト B およびホスト C で重大度が「エラー」のイベントが 60 秒以内に発行される
- 発行されるイベント
「営業部のホスト A, ホスト B, ホスト C で障害が発生しているため、運用に支障が出ます。」というメッセージの重大度が「警告」のイベント

関連不成立の場合

- 関連不成立の条件
関連成立の条件を満たしていない
- 発行されるイベント
「運用は進んでいますが、ホスト A, ホスト B, ホスト C のどれかで障害が発生しているおそれがあります。」というメッセージの重大度が「情報」のイベント

次に示す格納先の関連イベント発行定義ファイル (例: teigil.conf) をテキストエディターで開きます。

- Windows の場合: 任意のフォルダ
 - UNIX の場合: 任意のディレクトリ
- 関連イベント発行定義ファイルの拡張子は .conf としてください。ファイル名に使用できる文字は、半角英数字とアンダーバー「_」だけです。

次のように記述します。

```
VERSION=2
[error_gradation]
CON=E.SEVERITY==Error,B.SOURCESERVER==hostA
CON=E.SEVERITY==Error,B.SOURCESERVER==hostB
CON=E.SEVERITY==Error,B.SOURCESERVER==hostC
TYPE=combination
SUCCESS_EVENT=E.SEVERITY:Warning,B.MESSAGE:営業部のホストA,ホストB,
ホストCで障害が発生しているため、運用に支障が出ます。
FAIL_EVENT=E.SEVERITY:Information,B.MESSAGE:運用は進んでいますが、ホス
トA,ホストB,ホストCのどれかで障害が発生しているおそれがあります。
```

記述内容を説明します。

3. 障害の検知

記述内容	説明
<p>CON=E.SEVERITY==Error,B.SOURCESERVER==hostA</p> <p>CON=E.SEVERITY==Error,B.SOURCESERVER==hostB</p> <p>CON=E.SEVERITY==Error,B.SOURCESERVER==hostC</p>	<p>関連イベント発行条件を指定するために、イベント条件を指定します。hostA で発行されたエラーイベントを条件とするので、次のように指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 重大度が「エラー」と一致する。 E.SEVERITY==Error • 発行元のホストがホスト A と一致する。 E.SOURCESERVER==hostA <p>同様に、ホスト B およびホスト C で発行されたエラーイベントを指定してください。</p>
<p>TYPE=combination</p>	<p>定義した関連イベント発行条件の種類を指定します。ホスト A、ホスト B およびホスト C という「組み合わせ」を条件とするので、次のように指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • TYPE=combination
<p>SUCCESS_EVENT=E.SEVERITY:Warning,B.MESSAGE:</p> <p>営業部のホスト A、ホスト B、ホスト C で障害が発生しているため、運用に支障が出ます。</p>	<p>関連イベント発行条件が成立した場合にどのような関連イベントを発行するか指定します。</p> <p>「営業部のホスト A、ホスト B、ホスト C で障害が発生しているため、運用に支障が出ます。」というメッセージの重大度が「警告」のイベントを発行したいので、次のように指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 重大度が「警告」である。 E.SEVERITY:Warning • 表示されるメッセージを指定する。 B.MESSAGE: 営業部のホスト A、ホスト B、ホスト C で障害が発生しているため、運用に支障が出ます。
<p>FAIL_EVENT=E.SEVERITY:Information,B.MESSAGE:</p> <p>運用は進んでいますが、ホスト A、ホスト B、ホスト C のどれかで障害が発生しているおそれがあります。</p>	<p>関連イベント発行条件が不成立だった場合にどのような関連イベントを発行するか指定します。</p> <p>「運用は進んでいますが、ホスト A、ホスト B、ホスト C のどれかで障害が発生しているおそれがあります。」というメッセージの重大度が「情報」のイベントを発行したいので、次のように指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 重大度が「情報」である。 E.SEVERITY:Information • 表示されるメッセージを指定する。 B.MESSAGE: 運用は進んでいますが、ホスト A、ホスト B、ホスト C のどれかで障害が発生しているおそれがあります。

teigi1.conf を任意の格納先（例：C:¥jplim）に保存します。

jcoegschange コマンドをマネージャー上で次のように実行すると、定義が反映されま
す。

```
jcoegschange -f C:¥jplim¥teigi1.conf
```



参照先

- 導入・設計ガイド 3.3 関連イベントの発行
- 構築ガイド 4.5 関連イベント発行の設定
- 運用ガイド 5.1.7 関連イベントを表示および操作する
- コマンド・定義ファイルリファレンス 1. jcoegschange
- コマンド・定義ファイルリファレンス 2. 関連イベント発行定義ファイル

3.1.2 関連イベントが発行されているか確認しよう

関連イベントで条件を設定したあと、設定したとおりに関連イベントが発行されている
かどうか確認しましょう。

1. 「1.3.2 コマンドを実行できるか確認しよう」の手順に従い、[コマンド実行] 画面の
項目に次のように入力します。

項目	入力する内容
実行ホスト名	hostA
実行コマンド	jevsend -e SEVERITY=Error

ホスト A で重大度が「エラー」のイベントが発行されます。

2. 実行ホスト名を「hostB」に変更して手順 1 を繰り返します。
ホスト B で重大度が「エラー」のイベントが発行されます。
3. 実行ホスト名を「hostC」に変更して手順 1 を繰り返します。
ホスト C で重大度が「エラー」のイベントが発行されます。

イベント一覧の [種別] に、関連イベントが発行されたことを示す次のマークが表示さ
れます。

種別	説明
	関連イベントが成立したことを示します。
	関連イベントが成立しなかったことを示しま す。

この例では、イベント一覧に関連イベントが成立したことを示すマークが表示されてい
ることを確認してください。

3. 障害の検知

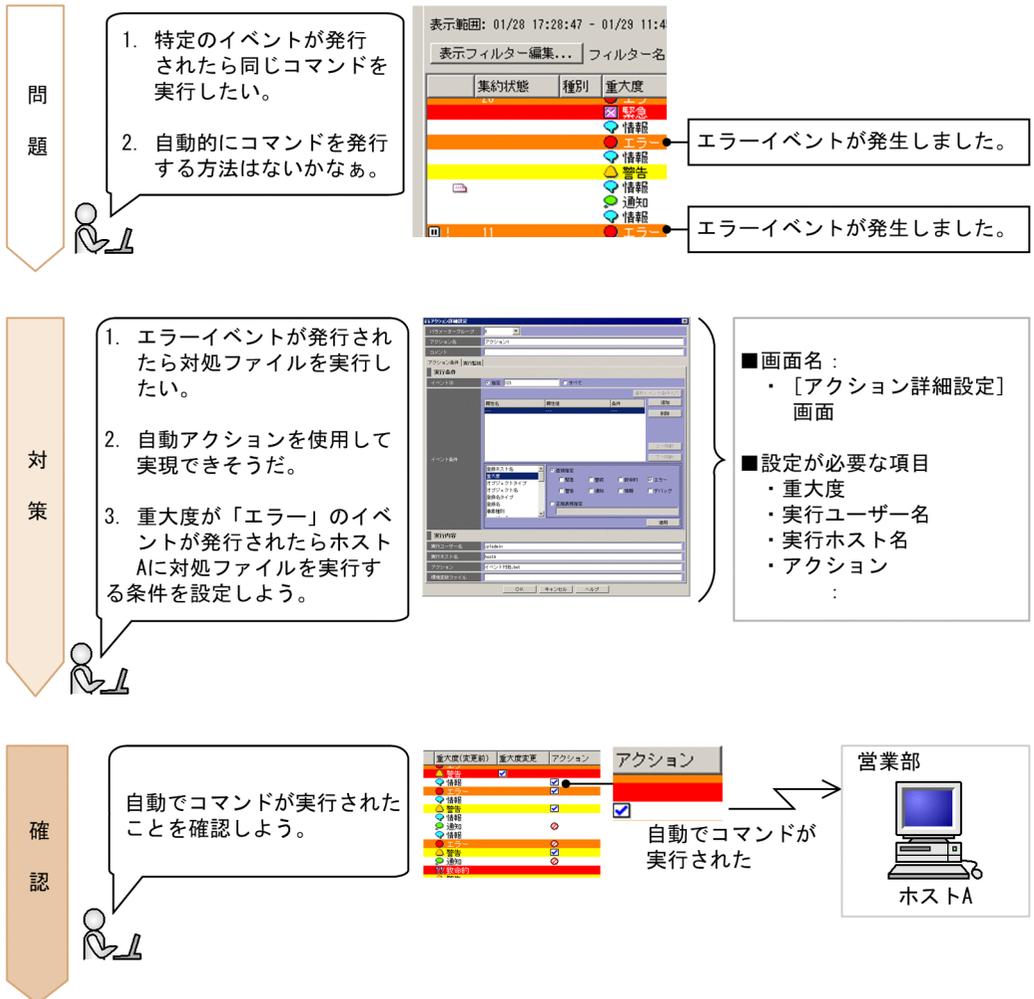


キーワード

相関イベント，大量，まとめ，集約，イベント，成立，不成立，発行，発行しない

3.2 特定のイベントが発行されたら自動でコマンドを実行したい

イベントが発行されると、システム管理者がコマンドを実行してイベントに対処する場合があります。システム管理者が、いつも特定のイベントに対して特定のコマンドを実行しては、負担が掛かります。負担を軽減させるために、特定のイベントが発行されたら自動でコマンドを実行するよう設定しましょう。



3.2.1 自動アクション機能でコマンドを実行しよう

自動でコマンドを実行するには、自動アクション機能を使用します。自動アクションの定義は、[アクション詳細設定]画面で設定します。自動アクションの定義とは、自動ア

3. 障害の検知

クシヨンを実行する条件の内容です。自動クシヨンの定義は、変数を使用してイベントに含まれる情報を指定することもできます。

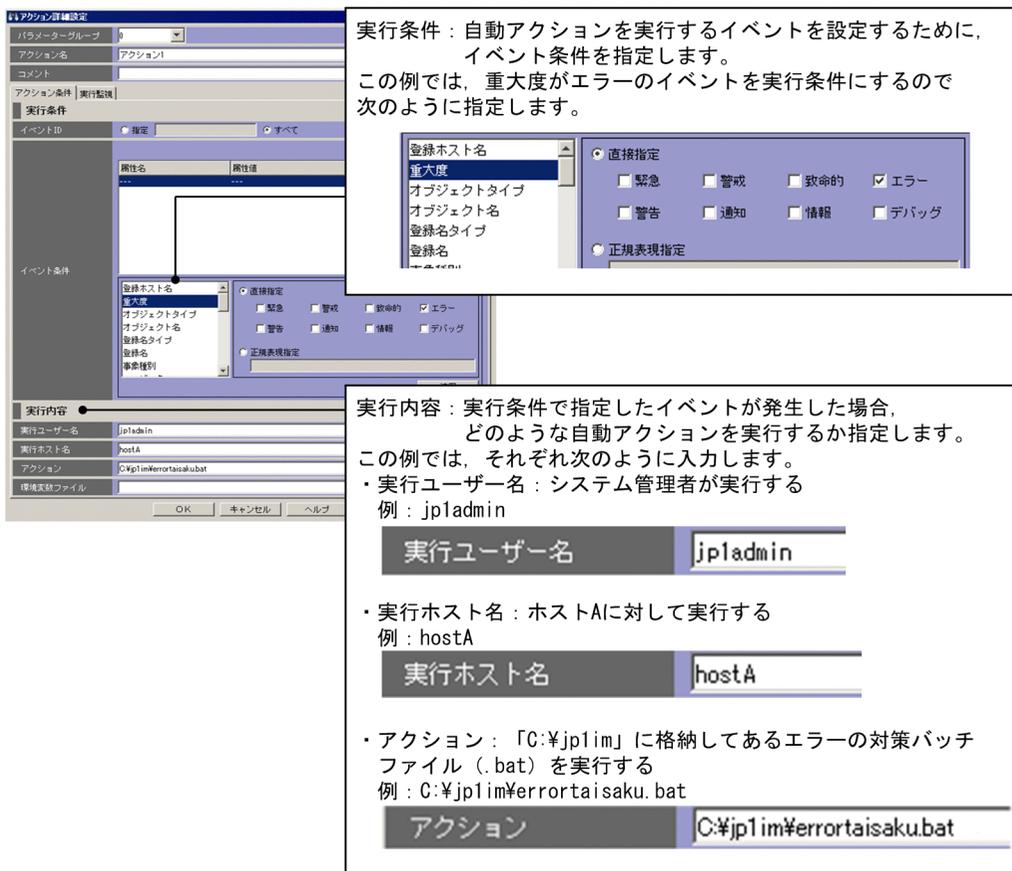
画面の表示方法

[アクション詳細設定]画面は,[アクション設定]画面で[追加]または[編集]をクリックすると表示されます。

前提条件

- なし

重大度が「エラー」のイベントが発行された場合、Windows マシンのホスト A に対して「C:\¥jplim」に格納してあるエラーの対策バッチファイル(.bat)を実行するように設定してみましょう。



実行条件：自動アクションを実行するイベントを設定するために、イベント条件を指定します。
この例では、重大度がエラーのイベントを実行条件にするので次のように指定します。

実行内容：実行条件で指定したイベントが発生した場合、どのような自動アクションを実行するか指定します。
この例では、それぞれ次のように入力します。

- 実行ユーザー名：システム管理者が実行する
例：jpladmin
- 実行ホスト名：ホストAに対して実行する
例：hostA
- アクション：「C:\¥jplim」に格納してあるエラーの対策バッチファイル(.bat)を実行する
例：C:\¥jplim¥erroraisaku.bat



- 画面リファレンス 2.26.1 [アクション詳細設定]画面

3.2.2 コマンドが実行されたか確認しよう

自動アクションを設定したあと、設定したとおりにコマンドが実行されているかどうか確認しましょう。

1. [アクション詳細設定]画面の[OK]ボタンをクリックします。
[アクション設定]画面が表示されます。
2. [アクション設定]画面の[適用]ボタンをクリックします。
設定内容が更新されます。
3. 「1.3.2 コマンドを実行できるか確認しよう」の手順に従い,[コマンド実行]画面の項目に次のように入力します。

項目	入力する内容
実行ホスト名	hostA
実行コマンド	jevsend -e SEVERITY=Error

ホストAで重大度が「エラー」のイベントが発行されます。

自動アクションの対象となるイベントの場合、イベント一覧の[アクション]に実行の対象となったマーク()が表示されます。

この例では、重大度が「エラー」のイベントが発行されたのを契機に、Windows マシンのホストAに対してイベント対処バッチファイル(.bat)を実行するような自動アクションが実行されていることを確認してください。



キーワード

自動アクション, コマンド, 自動アクションサービス



便利メモ

障害が発生したことをメールで送信したいとき

JP1/Integrated Management・TELstaffと連携していると、障害が発生した場合にメールを送信するように、自動アクション機能で設定できます。

詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management・TELstaff JP1/Integrated Management・TELstaff Alarm View 構築・運用ガイド」を参照してください。

3.3 一度実行したアクションを一定の期間だけ実行しないようにしたい

自動アクションを設定したイベントは、自動でアクションが実行されるため、システム管理者の負担を軽減できます。しかし、自動アクションを設定したイベントが短期間で大量に発行された場合、何度もアクションを実行してしまいます。不要なアクション実行を防ぐために、一度実行したアクションを一定の期間だけ実行しないようにしましょう。

問題

1. 対処ファイルを実行するように設定していると、同じイベントが発生するたびに対処ファイルが実行される。
2. 対処ファイルの実行は一度でよい。何か良い方法はないかなあ。



同じイベントが発行されたとき、アクションが何度も実行される

対策

1. 自動アクションが何度も実行されないようにしましょう。
2. 自動アクションの抑止を使用して実現できそう
3. 対処ファイルを一度実行したら10分間実行しない条件を指定しよう。



■ 画面名：
・ [アクション詳細設定] 画面

■ 設定が必要な項目
・ 抑止

確認

自動アクションの抑止で、一度対処ファイルが実行されたら指定した期間だけ対処ファイルが実行されなくなったことを確認しよう。



○ 対処ファイルの実行 実行される

✗ 対処ファイルの実行 実行されない

3.3.1 自動アクションの抑止でアクションを実行しないようにしましょう

一度実行したアクションを一定の期間だけ実行しないようにするためには、自動アクションの抑止を使用します。自動アクションの抑止は、[アクション詳細設定]画面で設定します。

画面の表示方法

[アクション詳細設定]画面は、[アクション設定]画面で[追加]または[編集]をクリックすると表示されます。

前提条件

- なし

「3.2.1 自動アクション機能でコマンドを実行しよう」で指定した自動アクションを、10分（600秒）間実行しないように設定してみましょう。

[アクション詳細設定]画面の[実行監視]タブを選択してください。



参照先

- 導入・設計ガイド 5.4.4 同一アクションの抑止
- 構築ガイド 4.4.4 自動アクションの実行抑止の設定
- 画面リファレンス 2.26.1 [アクション詳細設定]画面

3.3.2 同じアクションが何度も実行されていないか確認しよう

自動アクションの抑止を設定したあと、同じアクションが何度も実行されていないかどうか確認しましょう。

- [アクション詳細設定]画面の[OK]ボタンをクリックします。
[アクション設定]画面が表示されます。
- [アクション設定]画面の[適用]ボタンをクリックします。
設定内容が更新されます。

3. 障害の検知

3. 「1.3.2 コマンドを実行できるか確認しよう」の手順に従い,[コマンド実行]画面の項目に次のように入力します。

項目	入力する内容
実行ホスト名	hostA
実行コマンド	jevsend -e SEVERITY=Error

ホスト A で重大度が「エラー」のイベントが発行されます。

4. 手順 3 を繰り返します。

ホスト A で重大度が「エラー」のイベントが発行されます。

5. 10 分経ったら、もう一度手順 3 を繰り返します。

ホスト A で重大度が「エラー」のイベントが発行されます。

自動アクションが抑止された場合、イベント一覧の [アクション] に自動アクションが抑止されたマーク () が表示されます。

この例では、イベント一覧の [アクション] に次のように表示されていることを確認してください。

- 1 回目のコマンド実行
実行の対象となったマークが表示される ()
- 2 回目のコマンド実行
自動アクションが抑止されたマークが表示される ()
- 3 回目のコマンド実行
抑止時間に設定している 10 分を過ぎているので、実行の対象となったマークが表示される ()



キーワード

自動アクション, 発行, 大量, 時間, 抑止

4

障害の調査・対策

この章では、障害調査のために過去に発行されたイベントを表示したり、障害の対策方法をあらかじめ登録しておいて表示したりする方法を説明します。

4.1 過去に発行されたイベントの状況を確認したい

4.2 イベントを検索したい

4.3 発行されたイベントの対策方法を事前に登録して表示したい

4.1 過去に発行されたイベントの状況を確認したい

長い期間システムを監視していると、過去に発行された障害のあるイベントと同じイベントが発行される場合があります。そのイベントに対して、過去にどのような対処をしていたのか確認したくても、すでにイベント一覧に表示されていないことがあります。イベント一覧に表示されなくなったイベントを表示して、過去に発行されたイベントの状況を確認しましょう。

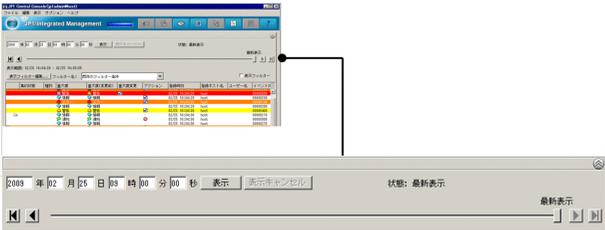
問題

[イベント監視] ページに表示されなくなった過去のイベントを確認したい。



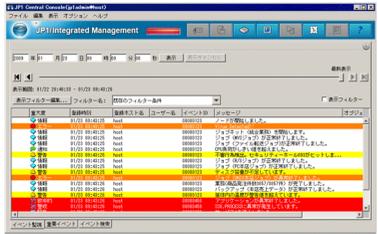
対策

1. 表示されなくなったイベントを表示するための条件を入力しよう。
2. 表示位置指定機能の設定で実現できそうだ。



確認

確認したい日時のイベントが表示されたことを確認しよう。



4.1.1 表示開始位置指定機能でイベントの表示時刻を指定しよう

[イベントコンソール] 画面の [イベント監視] ページに表示されなくなったイベントを表示するには、表示開始位置指定機能を使用します。

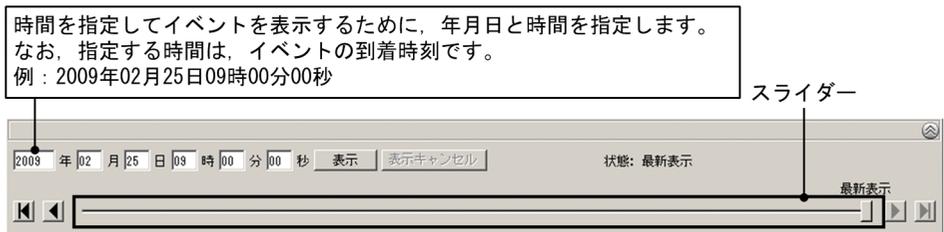
表示開始位置指定機能は、[イベントコンソール] 画面の [イベント監視] ページおよび [重要イベント] ページで使用できます。

前提条件

- 統合監視 DB が設定されている。

注 イベントを取得した時点から統合監視 DB が設定されている必要があります。

[イベント監視] ページに表示されている、いちばん古いイベントの到着時刻が 2009 年 02 月 26 日 10 時 00 分 00 秒のとき、2009 年 02 月 25 日 09 時 00 分 00 秒に発行されたイベントを表示してみましょう。



参照先

- 運用ガイド 5.1.9 時刻を指定してイベントを表示する
- 画面リファレンス 2.2 [イベント監視] ページ

スライダーを使用して、過去に発行されたイベントを表示することもできます。

4.1.2 指定した表示時刻からイベントが表示されているか確認しよう

表示開始位置を指定する領域で時刻を指定したあと、イベント一覧に指定した表示時刻からイベントが表示されているかどうか確認しましょう。

1. 表示開始位置を指定する領域で [表示] ボタンをクリックします。
指定した時刻以降に発行されたイベントがイベント一覧に表示されます。

この例では、2009 年 02 月 25 日 09 時 00 分 00 秒以降に発行されたイベントが [イベント監視] ページのイベント一覧に表示されていることを確認してください。



キーワード

イベント、検索、表示時間、[イベント監視] ページ、表示開始位置指定機能、過去



便利メモ

イベントにメモを設定したいとき

メモの設定を使用すると、イベントの調査状況をメモに残すことができます。メモの設定については、マニュアル「導入・設計ガイド」の「3.9 メモ情報の設定機能」を参照してください。

4. 障害の調査・対策

スライダーの位置が戻ってしまうとき

自動スクロール機能が有効の場合、新しいJP1 イベントが登録されるとスライダーの位置が最新状態の位置に戻ります。スライダーの位置を戻したくない場合は、自動スクロール機能を無効にしてください。自動スクロール機能の設定については、マニュアル「画面リファレンス」の「2.1 [イベントコンソール] 画面の概要」を参照してください。

4.2 イベントを検索したい

障害を調査する場合、イベント一覧に表示されたイベント以外に、障害に関係するイベントが発行されているかどうかイベントを確認する必要があります。しかし、障害の調査の段階では、すでにイベント一覧からイベントが消去されている場合があります。イベントの条件を指定して、イベント一覧から消去されたイベントを検索しましょう。

問題

過去にどんなエラーイベントが発行されたか検索したい。



対策

1. エラーイベントを検索しよう。
2. イベント検索でできそうだ。

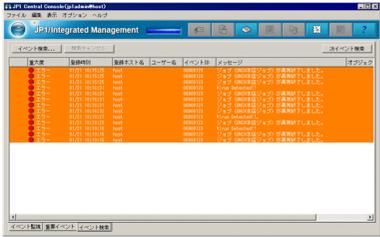
■ 画面名
・ [イベント検索条件設定] 画面

■ 設定が必要な項目
・ 重大度



確認

設定した条件のイベントだけ検索できていることを確認しよう。



4.2.1 イベント検索で条件を指定してイベントを検索しよう

イベントを検索するには、イベント検索を使用します。イベント検索の条件は、[イベント検索条件設定] 画面で設定します。

画面の表示方法

[イベント検索条件設定] 画面は、[イベント検索] ページの [イベント検索] ボタンをクリックすると表示されます。

4. 障害の調査・対策

前提条件

- 統合監視 DB が設定されている。

注 検索対象に統合監視 DB を指定したい場合だけ、統合監視 DB が設定されている必要があります。

重大度が「警告」のイベントを検索してみましょう。



イベント検索するための条件を設定します。
ここでは、重大度が「警告」となるように設定します。
例：警告



参照先

- 導入・設計ガイド 3.5 イベント検索
- 運用ガイド 5.5.1 検索の方法

4.2.2 イベントが検索できたか確認しよう

イベント検索で条件を指定したあと、[イベント検索] ページに検索したいイベントが表示されているかどうか確認しましょう。

1. [イベント検索条件設定] 画面の [OK] ボタンをクリックします。

指定した条件のイベントが [イベント検索] ページに表示されます。

この例では、重大度が「警告」のイベントが表示されていることを確認してください。

キーワード

イベント検索，検索，調査

4.3 発行されたイベントの対策方法を事前に登録して表示したい

システムに障害が発生した場合、システム管理者は、対策方法に合わせて障害を対処します。しかし、システム管理者がすべての対策方法を管理するのは困難です。システム管理者の管理作業の負担を軽減するために、イベントの対策方法を事前に登録して表示しましょう。

問題

障害の対策方法が表示されていたら対処が早くなるのにな。



対策

1. 障害の対策方法を登録しよう。
2. イベントガイドで登録できそう。
3. ホストAで重大度が「エラー」のイベントが発生したときの対策方法を設定しよう。



■ 定義ファイル名：
・ イベントガイド情報ファイル
：

■ 設定が必要な項目
・ イベントガイド番号
・ 属性名:属性値
：

確認

1. 対策方法をガイド情報で確認しよう。
2. ガイド情報に従って、営業部のxxx課長へ連絡しよう。



ガイド 詳細情報
エラーコードを記録して、営業部のxxx課長へ連絡してください。連絡先: 内線zz-zzzです。

4.3.1 イベントガイド機能で対策方法を登録しよう

イベントの対策方法を事前に登録して表示するには、イベントガイド機能を使用します。イベントガイド機能を使用するためには、jco_guide.txt というファイル名でイベントガイド情報ファイルを作成します。

4. 障害の調査・対策

前提条件

- なし

営業部のホスト A でユーザープロセスが異常終了し、重大度が「エラー」のイベントが発行された場合の対処を表示するように登録してみましょう。

jco_guide.txt に次のように記述します。

```
DESC_VERSION=1
[EV_GUIDE_1]
#異常終了の連絡先
EV_COMP=E.SEVERITY:Error
EV_COMP=B.SOURCESERVER:hostA
EV_GUIDE=詳細情報¥nエラーコードを記録して、営業部のxxx課長へ連絡してください。¥n連絡先は内線zz-zzzです。
[END]
```

記述内容を説明します。

記述内容	説明
EV_COMP=E.SEVERITY:Error EV_COMP=B.SOURCESERVER:hostA	イベントを比較するために、比較条件を指定します。 次のように指定します。 <ul style="list-style-type: none">重大度が「エラー」である。 EV_COMP=E.SEVERITY:Errorイベントの発行元がホスト A である。 EV_COMP=B.SOURCESERVER:hostA
EV_GUIDE= 詳細情報 ¥n エラーコードを記録して、営業部の xxx 課長へ連絡してください。¥n 連絡先は内線 zz-zzz です。	イベントガイドに表示したいメッセージを指定します。

作成したイベントガイド情報ファイルは、次に示す格納先に保存してください。

- Windows の場合：
 - 物理ホストのとき
Console パス ¥conf¥guide¥
 - 論理ホストのとき
共有フォルダ ¥jplcons¥conf¥guide¥
- UNIX の場合：
 - 物理ホストのとき
/etc/opt/jplcons/conf/guide/
 - 論理ホストのとき
共有ディレクトリ /jplcons/conf/guide/

jco_spmd_reload コマンドを実行するか、JP1/IM・Manager を再起動すると、定義した内容が反映されます。

また、JP1/IM・View を接続している場合は、再起動してください。



参照先

- 構築ガイド 4.7.1 イベントガイド情報の編集の手順
- コマンド・定義ファイルリファレンス 2. イベントガイド情報ファイル (jco_guide.txt)

4.3.2 対策方法が登録されたか確認しよう

イベントガイド機能でイベントガイド情報を設定したあと、設定したイベントの対策方法が登録されているかどうか確認しましょう。

1. 「1.3.2 コマンドを実行できるか確認しよう」の手順に従い、[コマンド実行]画面の項目に次のように入力します。

項目	入力する内容
実行ホスト名	hostA
実行コマンド	jco_send -e SEVERITY=Error

ホスト A でエラーイベントが発行されます。

2. 発行されたイベントをイベント一覧で選択し、[イベントコンソール]画面の[表示] - [イベント詳細表示]を選択します。
表示されているイベントに対応したイベントガイド情報が[イベント詳細]画面に表示されます。

この例では、次のように表示されていることを確認してください。

ガイド

詳細情報

エラーコードを記録して、営業部のxxx課長へ連絡してください。
連絡先は内線zz-zzzです。



キーワード

対策方法、イベント、イベントガイド、障害、イベントガイド情報



便利メモ

イベントに関連したアプリケーションを起動したいとき

イベントを選択して、その表示内容に関連するアプリケーションの画面を起動できます。設定手順は、マニュアル「構築ガイド」の「4.14 連携製品のモニター起動の設定」を参照してください。

障害対処を明確にしたいとき

JP1/Integrated Management・Service Support と連携していると、イベントごとに障害対処の担当者、作業期限・優先度などをあらかじめ設定できます。解

4. 障害の調査・対策

決までのプロセスを可視化し、「だれが」、「いつまでに」、「なにをするか」を明確にできます。

詳細については、マニュアル「JP1/Integrated Management - Service Support 構築・運用ガイド」を参照してください。

索引

I

IM 構成管理

- IM 構成管理 3
- システムの階層構成の定義 4
- ホストの登録 3

[IM 構成管理] 画面 3

J

JP1/Base

- ユーザーマッピング 13

[JP1/Base 環境設定] ダイアログボックス
13

あ

[アクション詳細設定] 画面 46, 49

い

- イベントガイド機能 57
- イベントガイド情報ファイル 57
- イベント検索 55
- [イベント検索条件設定] 画面 55
- イベント取得フィルター 18

え

[エージェント構成編集] 画面 4

か

階層構成の定義 4

監視

- イベントを絞り込んで表示したい 28
- 重大度を変更したい 31
- ホストを監視対象から外したい 35

き

- 共通除外条件 36
- [共通除外条件設定] 画面 36
- 業務グループ 8

[業務グループの新規作成] 画面 9

け

検知

- アクションを一定の期間だけ実行しないようにしたい 48
- 自動でコマンドを実行したい 45
- 複数のイベントを一つのイベントとして扱いたい 40

こ

構築

- イベントを一元管理したい 16
- 業務システムをグループ単位で監視したい 6
- コマンドを実行したい 12
- システムを構築したい 2
- ビジュアルに監視したい 21

[コマンド実行] 画面 15

し

- システムの基本構成 VI
- 自動アクション機能 45
- 重大度変更機能 31
- 重大度変更定義ファイル (jcochsev.conf) 32
- 重要イベントフィルター 18
- [所属ホストの登録 / 登録解除] 画面 9
- [新規監視ノード作成] 画面 22

せ

セントラルコンソール

- イベントガイド機能 57
- イベント検索 55
- 共通除外条件 36
- 自動アクション機能 45
- 自動アクションの抑止 49
- 重大度変更機能 31
- セントラルコンソール 17
- 関連イベント 41

表示開始位置指定機能 52

表示フィルター 28

セントラルスコープ

セントラルスコープ 21

ツリー形式 22

マップ形式 23

そ

関連イベント 41

関連イベント発行定義ファイル

(teigil.conf) 41

ち

調査・対策

過去に発行されたイベントの状況を確認

したい 52

検索したい 55

対策方法を事前に登録して表示したい

57

つ

ツリー形式 22

て

転送フィルター 18

ひ

[ビジュアル監視 (編集中)] 画面 24

表示開始位置指定機能 52

表示フィルター 18, 28

[表示フィルター設定] 画面 29

ふ

[プロパティ] 画面 23

[プロファイル表示 / 編集] 画面 17

ほ

[ホスト登録] 画面 3

ホストの登録 3

ま

マップ形式 23

ゆ

ユーザーフィルター 18

ユーザーマッピング 13

よ

抑止 49